

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(11月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2025年10月) 2
- ◆韓国工作機械主要統計(2025年10月) 3

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国: PMI 47.9%(12月) 7
- ◆中国製造業 PMI 50.1%(12月) 8
- ◆イタリアの工作機械産業
停滞気味の2025年、2026年緩やかな成長予測 8
- ◆トルコCNC機械市場動向 10
- ◆EU通商政策動向 14
- ◆欧州委員会が「自動車パッケージ」を発表、
2035年内燃機関車禁止を撤回 14
- ◆米国通商政策動向:
IEEPA訴訟 15
- 2026年の貿易協定 16
- 2026年国防権限法(NDAA) 18
- 特定の先端半導体への25%関税 18
- 中国向け特定半導体に
関する輸出許可審査方針の改訂 19

3. 工作機械関連企業動向

- ◆Skoda社、チェコ初のバッテリー駆動式
電車が海外輸出へ 20
- ◆ThyssenKrupp、
厳しい市場環境が続く中、堅調な業績を維持 21
- ◆SNTホールディングス「工作機械・
スマートファクトリー企業『SMEC』経営参加」 23
- ◆Hurco社、
2025年会計年度第4四半期および通期業績 23

4. 展示会情報

- ◆IMTEX2027 日本パビリオン出展募集 26

5. その他

- ◆ユーザー産業動向 28

6. 日工会外需状況(12月) 34

お知らせ

- ◆インドOTR(インドBIS認証制度)廃止について 36

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(11月)

AMT(米国製造技術協会)が発表した米国製造技術受注レポートによると、金属加工機械の新規受注額は2025年11月に4億3,790万ドルに達した。これは2025年10月比19.6%減で、2024年11月の受注額とほぼ同額で、その差はわずか200万ドル強であった。USMTOの2025年1~11月機械受注累計額は49億2,000万ドルで、前年同期比で17.8%増加した。

企業が設備投資予算を使い果たし、税制優遇措置を最大限に活用しようとするため、年末の製造技術受注は増加する傾向がある。2025年11月はこの傾向を裏付けるとともに、8月に始まった受注活動の増加も継続した。2025年11月の受注額は、例年11月の水準を約26%上回り、前月を除けば、2022年5月以来最大の3ヶ月累計受注額を記録した。

2025年11月の受注額の減少にもかかわらず、金属加工機械市場は依然として堅調である。12月の活動の集計を除けば、年初来の受注は2024年全体と比べて約5%増加している。税制優遇措置や金融緩和は製造技術への追加投資を促す可能性があるが、地政学的不安の再燃や不確実性の高まりは、この有望な投資計画を頓挫させる可能性がある。

(USMTOレポート 2026年1月12日付)

米国工作機械受注統計

(金額単位：千ドル)

年 月	切削型受注		成型型受注	
	台 数	金 額	台 数	金 額
2024年 11月	1,759	436,077	20	3,871
12月	1,972	496,716	22	12,589
2025年 1月	1,525	350,230	18	4,234
2月	1,654	377,516	17	5,763
3月	1,888	505,037	17	12,481
4月	1,755	438,122	16	5,895
5月	1,501	381,474	21	11,218
6月	1,593	421,310	16	5,033
7月	1,574	387,149	8	2,836
8月	1,840	526,900	18	4,512
9月	1,793	481,570	28	12,428
10月	2,003	539,662	18	4,961
11月	1,650	434,129	20	3,729
平均	1,731	444,299	18	6,888

◆米国工作機械受注統計(地域別)

(金額単位：百万ドル)

地域別	2025年11月 (P)	2025年10月 (R)	前月比 (%)	前年同月	前年同月比 (%)	2025年累計(P)	2024年累計 (R)	前年同期比 (%)
全米	437.9	544.6	-19.6	439.9	-0.5	4,916.2	4,174.7	17.8
北東部	79.9	116.9	-31.7	81.0	-1.3	806.2	710.3	13.5
南東部	77.9	58.9	32.3	53.0	46.8	659.4	551.2	19.6
北中東部	105.6	117.1	-9.8	107.8	-2.1	1,103.5	998.7	10.5
北中西部	64.9	71.0	-8.6	78.4	-17.2	794.8	805.7	-1.4
南中部	30.2	44.7	-32.5	38.6	-21.7	501.4	360.0	39.3
西部	79.4	136.1	-41.6	81.2	-2.2	1,050.8	748.7	40.3

P：暫定値 R：改定値
データは成型形含む

◆台湾工作機械輸出入統計(2025年10月)

台湾工作機械輸出入統計(2025年1-10月)

(単位：千USDドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2024.1-10	2025.1-10	前年比(%)	2024.1-10	2025.1-10	前年比(%)
放電加工機・レーザ加工機	130,134	121,309	-6.8	177,427	224,015	26.3
マシニングセンタ	545,333	511,097	-6.3	60,187	100,404	66.8
旋盤	444,007	361,701	-18.5	52,602	39,746	-24.4
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	131,424	117,370	-10.7	10,551	8,753	-17.0
研削盤	176,609	181,498	2.8	40,566	29,320	-27.7
歯切り盤・歯車機械	92,473	79,590	-13.9	23,181	22,497	-3.0
切 削 型 合 計	1,519,980	1,372,565	-9.7	364,514	424,735	16.5

出所：TAMI

台湾工作機械国別輸出入統計(2025年1-10月)

(金額単位：千USドル)

輸 出						輸 入					
順位	国 別	2024.1-10	2025.1-10	割合(%)	前年比(%)	順位	国 別	2024.1-10	2025.1-10	割合(%)	前年比(%)
1	中 国	508,572	449,396	27.0	-11.6	1	日 本	169,271	207,410	37.1	22.5
2	米 国	277,479	269,421	16.2	-2.9	2	中 国	88,025	111,962	20.0	27.2
3	ト ル コ	171,392	124,683	7.5	-27.3	3	ベ ル ギ ー	393	92,416	16.5	23,415.5
4	イ ン ド	113,137	114,937	6.9	1.6	4	ド イ ツ	38,721	36,752	6.6	-5.1
5	ベ ト ナ ム	66,188	78,432	4.7	18.5	5	ス イ ス	26,049	31,848	5.7	22.3
6	タ イ	61,397	73,481	4.4	19.7	6	韓 国	37,653	22,513	4.0	-40.2
7	日 本	41,655	40,856	2.5	-1.9	7	タ イ	12,925	11,453	2.0	-11.4
8	オ ラ ン ダ	48,477	40,377	2.4	-16.7	8	米 国	12,178	9,931	1.8	-18.5
9	イ タ リ ア	36,533	38,268	2.3	4.7	9	イスラエル	4,622	5,521	1.0	19.5
10	ド イ ツ	50,559	31,336	1.9	-38.0	10	台 湾	11,128	5,333	1.0	-52.1
11	マレーシア	26,173	29,429	1.8	12.4	11	イ タ リ ア	14,160	5,193	0.9	-63.3
12	英 国	31,106	28,030	1.7	-9.9	12	シンガポール	923	4,014	0.7	334.9
13	韓 国	41,489	26,894	1.6	-35.2	13	リトアニア	-	3,608	0.6	0.0
14	インドネシア	27,599	26,453	1.6	-4.2	14	オーストリア	3,051	2,084	0.4	-31.7
15	ブラジル	23,523	25,035	1.5	6.4	15	スウェーデン	5,169	2,002	0.4	-61.3
16	メキシコ	23,356	22,255	1.3	-4.7	16	ス ペ イ ン	169	1,609	0.3	852.1
17	オーストラリア	20,549	20,412	1.2	-0.7	17	チ ェ コ	1,277	1,515	0.3	18.6
18	ポーランド	13,962	16,885	1.0	20.9	18	オ ラ ン ダ	1,140	934	0.2	-18.1
19	ベ ル ギ ー	11,848	15,497	1.0	30.8	19	英 国	3,614	802	0.1	-77.8
20	カ ナ ダ	20,938	15,363	0.9	-26.6	20	デンマーク	186	537	0.1	204.8
21	フ ラ ン ス	20,615	14,735	0.9	-28.5		そ の 他	2,436	1,494	0.3	-38.7
22	ス ペ イ ン	11,865	13,330	0.8	12.3						
23	南アフリカ	7,966	10,608	0.6	33.2						
24	ウクライナ	4,538	8,578	0.5	89.0						
25	シンガポール	8,318	8,103	0.5	-2.6						
26	アラブ首長国	10,102	7,973	0.5	-21.1						
27	ギリシャ	5,618	7,173	0.4	27.7						
28	サウジアラビア	5,930	6,618	0.4	11.6						
29	チ ェ コ	4,451	6,218	0.4	39.7						
30	フィリピン	7,036	6,016	0.4	-14.5						
	そ の 他	106,894	85,792	5.2	-19.7						
	合 計	1,809,265	1,662,581	100.0	-8.1		合 計	433,090	558,961	100.0	29.1

出所：海関進出口統計月報

◆韓国工作機械主要統計(2025年10月)

○業種別受注(2025.10) 韓国工作機械受注(2025年10月) (単位：百万ウォン)

需要業種	2025.9	2025.10	前月比(%)	2024.1-10	2025.1-10	前年同期比(%)
鉄鋼・非鉄金属	2,193	4,738	116.1	37,068	36,607	-1.2
金属製品	110	65	-40.9	8,673	1,740	-79.9
一般機械	11,745	5,807	-50.6	242,566	199,610	-17.7
電気機械	3,556	5,690	60.0	103,352	71,786	-30.5
自動車	37,267	11,751	-68.5	322,836	315,595	-2.2
造船・輸送用機械	4,113	1,017	-75.3	71,834	44,441	-38.1
精密機械	4,403	1,122	-74.5	41,035	52,084	26.9
その他製造業	3,056	4,219	38.1	47,242	48,705	3.1
官公需・学校	142	287	102.1	3,465	4,561	31.6
商社・代理店	5,512	2,247	-59.2	72,334	59,221	-18.1
その他	0	0	-	18,458	0	-
内 需 合 計	72,097	36,943	-48.8	968,863	834,350	-13.9
外 需	169,966	167,214	-1.6	1,546,619	1,669,951	8.0
総 合 計	242,063	204,157	-15.7	2,515,482	2,504,301	-0.4

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別受注(2025.10)

(単位：百万ウォン)

機 種	2025.9	2025.10	前月比(%)	2024.1-10	2025.1-10	前年同期比(%)
N C 小 合 計	238,730	201,072	-15.8	2,463,316	2,449,681	-0.6
NC旋盤	115,366	110,484	-4.2	1,183,785	1,224,500	3.4
マシニングセンタ	82,026	69,448	-15.3	881,273	878,378	-0.3
NCフライス盤	778	0	-	5,045	4,563	-9.6
NC専用機	27,488	7,739	-71.8	219,960	185,357	-15.7
NC中ぐり盤	6,575	5,656	-14.0	69,066	72,216	4.6
NCその他の工作機械	4,753	6,522	37.2	72,165	61,928	-14.2
非 N C 小 合 計	1,997	1,791	-10.3	32,594	37,916	16.3
旋盤	516	293	-43.2	10,737	13,907	29.5
フライス盤	453	598	32.0	10,107	12,230	21.0
ボール盤	70	0	-	345	383	11.0
研削盤	958	900	-6.1	10,856	11,326	4.3
専用機	0	0	-	308	0	-
その他の工作機械	0	0	-	20	0	-
金 属 切 削 型	240,727	202,863	-15.7	2,495,910	2,487,597	-0.3
金 属 成 形 型	1,336	1,294	-3.1	19,572	16,704	-14.7
総 合 計	242,063	204,157	-15.7	2,515,482	2,504,301	-0.4

出所：韓国工作機械産業協会

韓国工作機械生産&出荷統計(2025年10月)

○生産(2025年10月)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2025.9	2025.10	前月比(%)	2024.1-10	2025.1-10	前年同期比(%)
N C 小 合 計	183,832	144,639	-21.3	1,925,033	1,738,753	-9.7
NC旋盤	81,560	63,222	-22.5	928,171	807,270	-13.0
マシニングセンタ	71,244	54,342	-23.7	654,426	612,425	-6.4
NCフライス盤	1,508	130	-91.4	2,029	3,724	83.5
NC専用機	19,934	16,256	-18.5	205,525	208,289	1.3
NC中ぐり盤	1,864	1,550	-16.8	44,610	28,992	-35.0
NCその他	4,185	6,662	59.2	63,954	51,021	-20.2
非 N C 小 合 計	2,386	2,558	7.2	34,311	28,169	-17.9
旋盤	285	99	-65.3	10,768	2,995	-72.2
フライス盤	825	741	-10.2	8,570	10,357	20.9
ボール盤	407	291	-28.5	3,855	3,180	-17.5
研削盤	869	413	-52.5	7,460	7,160	-4.0
専用機	0	1,014	-	3,437	4,407	28.2
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	186,218	147,197	-21.0	1,959,344	1,766,922	-9.8
金 属 成 形 型 合 計	14,505	14,479	-0.2	156,005	153,931	-1.3
総 合 計	200,723	161,676	-19.5	2,115,349	1,920,853	-9.2

出所：韓国工作機械産業協会

○出荷(2025.10)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2025.9	2025.10	前月比(%)	2024.1-10	2025.1-10	前年同期比(%)
N C 小 合 計	281,295	206,117	-26.7	2,464,465	2,331,910	-5.4
NC旋盤	137,005	102,646	-25.1	1,186,502	1,147,535	-3.3
マシニングセンタ	109,063	78,572	-28.0	915,322	831,838	-9.1
NCフライス盤	1,508	130	-91.4	2,029	3,724	83.5
NC専用機	19,934	16,256	-18.5	205,527	227,453	10.7
NC中ぐり盤	4,669	3,232	-30.8	65,853	45,735	-30.5
NCその他	5,579	2,804	-49.7	62,415	48,593	-22.1
非 N C 小 合 計	3,728	3,693	-0.9	40,027	46,640	16.5
旋盤	1,248	1,032	-17.3	14,388	19,122	32.9
フライス盤	859	762	-11.3	8,668	10,754	24.1
ボール盤	517	411	-20.5	4,541	3,892	-14.3
研削盤	1,104	474	-57.1	8,748	8,395	-4.0
専用機	0	1,014	-	3,437	4,407	28.2
その他	0	0	-	24	0	-
金 属 切 削 型 合 計	285,023	209,810	-26.4	2,504,492	2,378,550	-5.0
金 属 成 形 型 合 計	1,167	886	-24.1	16,494	14,753	-10.6
総 合 計	286,190	210,696	-26.4	2,520,986	2,393,303	-5.1

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別輸出(2025.10) 韓国工作機械輸出統計(2025年10月) (単位：千USドル)

機種別	2025.9	2025.10	前月比(%)	2024.1-10	2025.1-10	前年同期比(%)
N C 小 合 計	145,153	115,497	-20.4	1,495,522	1,328,471	-11.2
NC旋盤	75,195	59,159	-21.3	704,411	672,759	-4.5
マシニングセンタ	46,788	31,651	-32.4	396,743	390,947	-1.5
NCフライス盤	3,056	177	-94.2	15,482	13,752	-11.2
NC専用機	0	0	-	36,559	11,846	-67.6
NC中ぐり盤	1,853	1,323	-28.6	49,473	26,587	-46.3
レーザ加工機	10,791	18,412	70.6	220,486	157,760	-28.4
NCその他	3,065	1,863	-39.2	32,763	28,262	-13.7
非 N C 小 合 計	9,967	6,607	-33.7	118,118	78,081	-33.9
旋盤	3,108	718	-76.9	8,611	9,288	7.9
フライス盤	513	389	-24.1	10,387	6,559	-36.9
ボール盤	505	145	-71.3	4,562	4,826	5.8
研削盤	440	1,459	231.5	11,916	9,483	-20.4
専用機	82	7	-91.3	104	431	315.9
その他	3,439	2,964	-13.8	36,940	30,370	-17.8
金 属 切 削 型 合 計	155,120	122,104	-21.3	1,613,640	1,406,552	-12.8
金 属 成 形 型 合 計	39,215	35,279	-10.0	448,629	395,722	-11.8
総 合 計	194,334	157,383	-19.0	2,062,269	1,802,274	-12.5

出所：韓国通関局

○仕向け国別輸出(2025.1-10) (単位：千USドル)

機種別	アジア	中国	インド	アメリカ	欧州	ドイツ	トルコ
NC小合計	365,196	116,367	84,518	406,882	411,610	156,846	95,118
NC旋盤	123,868	45,629	42,412	215,368	275,383	105,276	71,025
マシニングセンタ	95,901	33,281	31,085	130,981	115,745	44,544	22,533
NCフライス盤	5,536	2,766	1,290	1,516	3,192	337	10
NC専用機	197	0	47	3	0	0	0
NC中ぐり盤	9,141	5,294	2,017	10,306	3,401	1,239	412
レーザ加工機	101,096	18,854	4,021	32,107	8,979	2,873	417
NCその他	9,245	872	1,158	14,329	2,566	2,317	0
非NC小合計	34,561	8,482	7,407	14,460	11,372	1,095	793
旋盤	2,986	89	1,273	226	1,469	31	73
フライス盤	2,737	655	591	1,695	782	168	342
ボール盤	1,666	24	400	1,593	216	161	0
研削盤	5,719	1,953	1,209	678	1,862	0	244
専用機	173	171	2	29	200	193	0
その他	12,517	4,553	882	9,040	1,817	281	19
金 属 切 削 型 合 計	399,757	124,849	91,925	421,342	422,982	157,941	95,911
金 属 成 形 型 合 計	178,333	47,873	52,691	99,315	49,036	5,926	5,953
総 合 計	578,090	172,723	144,616	520,657	472,018	163,867	101,864

出所：韓国通関局

○機種別輸入(2025.10) 韓国工作機械輸入統計(2025年10月) (単位：千USドル)

機 種 別	2025.9	2025.10	前月比(%)	2024.1-10	2025.1-10	前年同期比(%)
N C 小 合 計	56,506	39,783	-29.6	511,793	506,748	-1.0
NC旋盤	3,521	3,562	1.2	64,059	43,917	-31.4
マシニングセンタ	11,740	11,617	-1.1	120,271	121,278	0.8
NCフライス盤	5,200	1,506	-71.0	11,850	16,738	41.2
NC専用機	0	21	-	2,164	2,909	34.4
NC中ぐり盤	4,048	91	-97.7	5,605	10,657	90.1
レーザ加工機	15,453	14,508	-6.1	184,387	180,567	-2.1
NCその他	1,542	878	-43.1	14,539	8,824	-39.3
非 N C 小 合 計	14,300	6,462	-54.8	74,732	90,184	20.7
旋盤	568	241	-57.6	6,311	5,021	-20.4
フライス盤	315	121	-61.6	3,805	4,645	22.1
ボール盤	227	198	-12.6	6,030	3,226	-46.5
研削盤	1,403	2,513	79.2	13,021	20,135	54.6
専用機	230	1	-99.7	4,998	485	-90.3
その他	8,126	1,917	-76.4	18,716	33,468	78.8
金 属 切 削 型 合 計	70,806	46,245	-34.7	586,525	596,932	1.8
金 属 成 形 型 合 計	15,700	10,516	-33.0	157,886	142,527	-9.7
総 合 計	86,507	56,761	-34.4	744,412	739,459	-0.7

出所：韓国通関局

○輸入国別(2025.1-10)

(単位：千USドル)

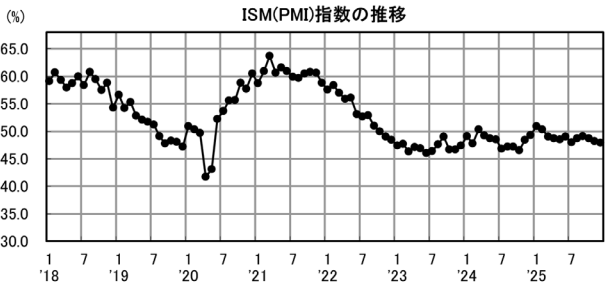
機種別	アジア	日本	台湾	米国	欧州	ドイツ	イタリア
N C 小 合 計	373,000	170,674	18,262	17,936	112,579	63,519	12,721
NC旋盤	39,136	27,932	0	851	3,929	2,424	0
マシニングセンタ	93,072	68,737	12,867	3,607	24,599	22,665	870
NCフライス盤	3,992	276	0	16	12,730	6,814	20
NC専用機	405	394	0	0	2,503	0	1,474
NC中ぐり盤	2,050	1,311	0	0	8,603	470	4,454
レーザ加工機	154,828	28,657	821	2,669	21,614	8,557	1,324
NCその他	5,157	2,071	113	2,250	1,396	912	49
非 N C 小 合 計	61,498	32,291	6,538	2,959	23,727	15,588	619
旋盤	4,960	2,055	820	0	54	22	0
フライス盤	2,936	2,051	20	761	943	435	187
ボール盤	2,670	882	510	6	474	106	0
研削盤	17,351	11,480	2,750	117	2,667	382	4
専用機	425	338	0	55	5	0	5
その他	17,722	9,230	436	1,113	12,918	11,533	1
金 属 切 削 型	434,498	202,965	24,800	20,895	136,306	79,107	13,340
金 属 成 形 型	91,613	33,129	2,743	3,771	47,103	17,878	4,753
総 合 計	526,111	236,094	27,543	24,667	183,409	96,986	18,092

出所：韓国通関局

2. 主要国・地域経済動向

◆米国：PMI 47.9%（12月）

12月の製造業PMI®は47.9%となり、11月の48.2%から0.3ポイント低下し、2025年の最低値となった。経済全体は、2020年4月に1カ月間の縮小を記録した後、68カ月連続で拡大を続けた。（製造業PMI®が一定期間にわたって42.3%を超える場合、一般的に経済全体の拡大を示している。）新規受注指数は、1カ月間の増加の後、12月に4カ月連続で縮小した。12月受注は47.7%と、11月の47.4%から0.3ポイント上昇した。12月の生産指数(51%)は、11月の51.4%から0.4ポイント低下した。物価指数は引き続き拡大(または「増加」)領域にあり、11月と同じ58.5%となった。受注残指数は45.8%となり、11月の44%から0.9ポイント上昇した。雇用指数は44.9%となり、11月の44%から0.9ポイント上昇した。



新規輸出受注指数は46.8%で、11月の46.2%より0.6ポイント上昇した。輸入指数は44.6%で、11月の48.9%より4.3ポイント低下した。

12月、米国の製造業活動は縮小のペースが加速し、生産指数と在庫指数の低下が製造業PMI®を0.3ポイント低下させた。これらの2つのサブ指数は11月に上昇していたため、今月の縮小は、過去数ヶ月のPMI®データで示唆されていた短期的な「バブル」的な改善の継続であり、製造業における最近の経済不確実性の象徴となっている。

12月に成長を報告した製造業4分野は、電気機器・家電・部品とコンピュータ・電子製品。

ISMが発表した12月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

項 目	2025年12月指数(%)	2025年11月指数(%)	備 考
ISM 指数(PMI)	47.9	48.2	前月比0.3ポイント減。PMIが50%を上回ると製造業の拡大を示唆。
新 規 受 注	47.7	47.4	前月比0.3ポイント増。拡大の基準は52.1である。2業種が増加を報告した。
生 産	51.0	51.4	前月比0.4ポイント減。拡大の基準は、52.1である。4業種が増加を報告。
雇 用	44.9	44.0	前月比0.9ポイント増。3業種が増加を報告した。
入 荷 遅 延	50.8	49.3	前月比1.5ポイント増。長期化の基準は、50以上。18業種中8業種が長期化を報告した。
在 庫	45.2	48.9	前月比3.7ポイント減。拡大の基準44.5ポイントを上回った。2業種が在庫増を報告した。
顧 客 在 庫	43.3	44.7	前月比1.4ポイント減。増加を報告した業種なし。
仕 入 れ 価 格	58.5	58.5	前月比0.0ポイント。11業種が増加を報告した。
受 注 残	45.8	44.0	前月比1.8ポイント増。1業種が増加を報告した。
輸 出 受 注	46.8	46.2	前月比0.6ポイント増。5業種が増加を報告した。
原 材 料 輸 入	44.6	48.9	前月比4.3ポイント減。1業種が増加を報告した。

*PMIは季節修正値

(ISM Manufacturing Report on Business 2026年1月1日付)

◆中国製造業 PMI 50.1%（12月）

12月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)は50.1%となり、前月比0.9ポイント上昇し、拡大局面に入った。

企業規模別に見ると、大企業PMIは50.8%で、前月比1.5ポイント上昇し、基準値を上回った。中規模企業PMIは49.8%で、前月比0.9ポイント上昇し、基準値を下回った。小規模企業PMIは48.6%で、前月比0.5ポイント低下し、基準値を下回った。

サブ指数別に見ると、製造業PMIを構成する5つのサブ指数のうち、生産指数、新規受注指数、サプライヤー納期指数はいずれも基準値を上回ったが、原材料在庫指数と雇用指数はいずれも基準値を下回った。

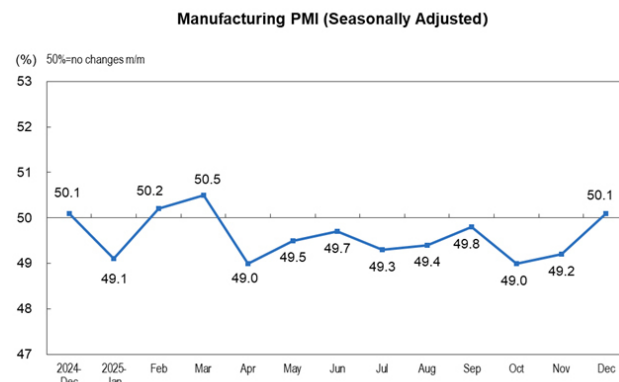
生産指数は51.7%で、前月比1.7ポイント上昇し、製造業の生産活動が加速していることが示された。

新規受注指数は50.8%で、前月比1.6ポイント上昇し、製造業の市場需要が改善していることが示された。

原材料在庫指数は47.8%で、前月比0.5ポイント上昇し、製造業の主要原材料の在庫減少幅が縮小していることが示された。

雇用指数は48.2%で、前月比0.2ポイント低下し、製造業の雇用情勢が若干悪化していることが示された。

サプライヤー納期指数は50.2%で、前月比0.1ポイント上昇し、製造業における原材料サプライヤーの納期がさらに短縮したことを示している。



(Bureau of Statistics of China 2026年1月1日付)

◆イタリアの工作機械産業 停滞気味の2025年、2026年緩やかな成長予測

UCIMU(イタリア工作機械・ロボット・自動化工業会)が発表した2025年暫定値と2026年予測によると、2024年は非常に困難な状況であったが、2025年はむしろ停滞した年となった。生産は緩やかに増加した。輸出の低迷が成長を鈍化させたが、国内市場の回復は鈍く、その影響は相殺されなかった。2026年は状況が改善する見込みだが、非常に不安定な状況のため、予測は慎重なものとなっている。

特に、2025年の生産額は64億2,000万ユーロで、前年比1.5%増加した。

この年は輸出の大幅な減少が特徴的で、輸出額は37億1,000万ユーロと、2024年比13.2%減少した。この分野におけるMade in Italy製品の主要市場のほぼ全てでマイナスの業績が記録され、厳しい国際情勢を物語っている。

UCIMUが分析したところ、2025年1月～8月累計、工作機械のみを提供するイタリアの主要輸出先市場は、米国(4億2,300万ユーロ、8.1%減)、ドイツ(1億9,600万ユーロ、29.7%減)であった。フランス(1億4,500万ユーロ、-0.5%)、インド(1億3,500万ユーロ、-4.2%)、ポーランド(1億3,500万ユーロ、+13.3%)と続いた。

国内では、消費が20.5%増の44億6,500万ユーロと回復し、イタリアメーカーの国内市場への出荷額の増加を牽引した。出荷額は27億1,000万ユーロに達し、前年比32%増となった。これら2つの指標の増加は目覚ましいが、依然として過去数年間の数値を大きく下回っているため、満足のいく結果とは言えない。

輸出/生産額は再び減少に転じ、57.8%で止まった。

2026年については、UCIMUが作成した予測によると、主要経済指標は(依然として)緩やかな上昇を示している。特に2026年には、生産は65億9,000万ユーロ(2025年比2.6%増)に達すると予想される。

この結果は、輸出がプラス圏に回復し(2025年比0.7%増)、総額37億3,500万ユーロに達すること、そして国内需要の増加に支えられ、イタリアメーカーによる国内納入が28億5,500万ユーロ(2025年比5.4%増)に回復することで決定づけられる。

イタリアにおける工作機械・ロボット・自動化産業の消費は47億3,000万ユーロに増加し、2025年比5.9%増となる見込みである。輸入も国内需要の回復の恩恵を受けると予想され、6.8%増の18億7,500万ユーロに達すると予測されている。

輸出/生産比率は再び低下し、56.7%となる見込みである。

UCIMU会長のリカルド・ローザ氏は次のようにコメントした。「非常に複雑な2024年を経て、2025年は生産がマイナスから成長へと転じ、トレンドが反転する年となることが確実となった。ただし、その成長はごくわずかである。実際、輸出が最終結果をこれほどまでに押し下げるとは予想していなかった。」

「国際的な地政学的不安定性、欧州と中東における紛争の継続、トランプ大統領の関税戦争、そしてその結果として生じた国際貿易の新たな秩序(無秩序)は、我が国の輸出に深刻な圧力をかけている。」

「一方、イタリア工作機械メーカーは国内市場で予想を上回る業績を達成したが、過去2年間に失った地位を回復できたのはごくわずかであった。これは、トランジション5.0に関連する重大な問題によるものである。トランジション5.0は、許しがたい遅延を伴って運用開始され、幾度かの調整を経て、運用最終数ヶ月でようやく使いやすくなったものの、12月31日の期限を1ヶ月以上も前に突然終了した。」

「ここ数週間、2026年度予算案の草案作成において議論されている政府機関による優遇措置が、実際に利用しやすく、迅速に実施できるものになることを期待している。イタリア工作機械メーカーは、明確さと迅速性を求めている。

「政府が最近、優遇措置期間を複数年とすることを発表したことを大変高く評価する。2026年初頭から2028年まで措置を利用できるのは賢明な選択である。顧客企業は購入計画を立て、メーカーは生産体制を整え、生産能力に応じて最適な方法で業務を配分できるようになる。」と付け加えた。

「海外では、自動車危機の影響を受けたドイツをはじめとする一部の市場の弱体化、主要輸出市場である米国での関税による販売難、そしてロシアなど特に機会に恵まれた一部の地域の閉鎖などにより、伝統的な地域だけでなく、メルコスール地域諸国を含む「代替」地域との商業関係構築に向けて、より一層の努力が必要である。EU・メルコスール協定の締結プロセスは既に最終段階に達しており、イタリアが継続に疑問を呈しているという新聞報道を読むのは大変残念だ。国際貿易にとって特にデリケートな時期に、今、後戻りすることは重大な過ちとなる」と述べた。

「また、この協定に基づき、当会は過去2年間、ラテンアメリカ諸国向けの取り組みを強化してきた。ブラジルで実施した調査ミッションは、現地の機関、企業、代表団体とのパートナーシップを強化することを目的としている。UCIMUは、両国の産業界間の新たな協力関係の構築に向け、アルゼンチンの産業界代表団体との興味深い協議を開始した。協定に関連するいわゆる『関連国』や『オブザーバー』についても、見過ごしてはいない。これらの国々も、私たちの企業に興味深い機会を提供してくれると確信している。メルコスール準加盟国の中で、私たちはチリに注目しており、同国では調査ミッションの後、地元の大学の参加を得てテクノロジーセンターを開発するプロジェクトが検討されている。一方、

専門家の間では、私たちの焦点はメキシコにある。メキシコでは、2025年初頭から、イタリア企業による関連市場の把握と進出を支援するデスクとして、メキシコ・イタリアプロモーション局が活動している。これは、中米・北米地域についても当てはまる。」

「アジアに関しては、インドと東南アジア諸国が特に関心を集めている。これらの国々は、非常に高い成長率と私たちへの好意的な姿勢を特徴としており、当会が支援する活動の活発さからもそれが分かる。その活動は、インド・デスクから、最近リニューアルされたITCインド・ネットワーク、そしてIMTベトナム・ネットワークに至るまで、支援する活動の活発さからも明らかだ。」

「欧州に目を向けると、メルツ政権が実施した措置にドイツ経済と製造業がどのように反応するかを見守りつつ、EUが介入し、グリーンモビリティへの移行のタイミングと方法を修正することで、旧大陸における産業砂漠化のリスクを回避することを期待している。我々の見解では、技術中立性の原則こそが、この状況に対する唯一の適切な対応策である。」

(UCIMU Press Release 2025年12月16日)

◆トルコ CNC 機械市場動向

商品名及びHSコード

商品名	HSコード
CNC機械	8458.11

CNC機械(コンピュータ数値制御機械)は金属、プラスチック、木材など多様な材料を高い精度で成形し、加工するために使われる製造装備だ。このような装備は、製造業者が寸法の一貫性を確保し、反復精度を維持し、作業安全性を強化できるように支援する。CNC機械は加工センター (machining center)、旋盤(lathes)、切削機械(milling machines)、レーザー及びプラズマ切断機、放電加工機、多軸システム(multi-axis system)など多様な設備に適用され、単純作業から高度な複合作業まで遂行できる高い柔軟性を提供する。

また、CNC機械は金属、木材、セラミック、プラスチックなど様々な種類の表面を対象に精密切断、ホール拡張、表面成形のような細部加工も可能だ。高度化した生産施設を構築しようとする企業にとって、CNC機械の輸入は非常に重要であり、調達から設置に至るまで関連規制と技術適合性基準を徹底的に遵守しなければならない。また、機械の製造年度、中古可否、電圧互換性、スピンドル出力、制御装置ブランド、加工センターのタイプは適正HSコードを決定する上で核心的で決定的な技術要因として作用する。

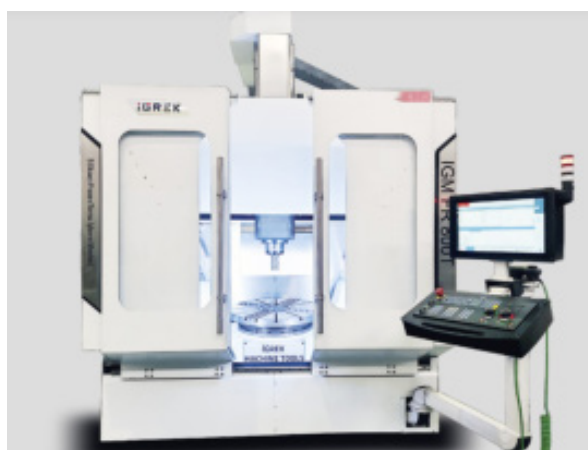
市場動向

トルコの工作機械産業は、金属加工、自動車、航空宇宙分野にわたって形成された幅広い産業ユーザー基盤と中堅製造企業中心の構造的特性を持つ成長産業である。2024年基準でトルコの工作機械生産量は前年対比5.9%減少したが、依然として地域内で3番目に大きい生産国の地位を維持した。市場の見通しによると、高度製造技術への投資拡大を背景に、2024年から2029年までの産業売上は年平均8%の成長率を記録すると予想される。また、トルコは2024年に計61億ドル規模の需要を記録し、地域内で4番目に大きい工作機械市場と評価される。

CNC機械類の需要の流れは、このような産業全般の傾向と密接に連動している。TurkeyはCNC装備の相当部分を輸入に依存しており、最近政府が推進した国産化政策、デジタル転換戦略、そしてハイテク製造業対象投資インセンティブなどが需要拡大をリードしている。2024年基準でCNC加工センター、CNC旋盤、CNC研削機は全体投資用機械類輸入の約55%を占め、これは産業施設全般から自動化及び精密生産への転換が加速化していることを示している。

航空宇宙、防衛産業、電子、自動車のような高度技術産業は、高精度・多機能CNC機械とロボティック加工システムに対する需要をさらに強化している。2024年、トルコの航空宇宙及び防衛産業の輸出は前年比29%増加した。これは産業全般で高技術基盤生産及び生産性向上が拡大していることを反映している。製品設計が複雑になるにつれ、製造業者はデジタルツイン、リアルタイムモニタリング、予知保全機能を備えたソリューションを導入することで、装備ダウンタイム及び運営費用を節減しようとする動きを強化している。

<İğrek Makina社のCNCミーリング及び旋盤 FR 800T Model 5>



資料：İğrek Makina

最近、トルコ工作機械産業では国産力量強化を通じた輸入依存度縮小傾向が明確に現れている。Usel Makinaのような企業は国産化比重が高いCNC機械生産に投資しており、MİLTEKSANのようなプロジェクトを通じて完全国産CNC制御装置開発を加速化している。同時にİğrek Makinaのような企業は大型ブリッジ型5軸システムを含む高精度CNCミーリング及び旋盤機械の設計・製造力量を拡大し、産業生態系での役割を強化している。İğrek Makinaの装備は最近、TUSAŞ(トルコ航空宇宙産業)施設に導入され、国内航空機生産プロジェクトに活用されている。

新規装備の価格負担が依然として大きいという点で、中堅製造企業を中心には中古またはレンタル形態のCNC機械の需要が明確に増加している。最近、トルコの高物価や緊縮的な金融環境の下で、多くの企業が費用効率的な代案として中古装備やレンタルモデルを選択する傾向が強化されている。

輸入動向

韓国は2021年以降、継続的にトルコの最大CNC機械供給国として位置づけられており、2024年基準でトルコのCNC機械輸入で31.7%のシェアを記録した。この割合は2025年1-9月に33.6%とさらに上昇したことが確認される。過去10年間(2014-2024)トルコの対韓CNC機械の輸入は239%増加し、長期的な成長を見せた。2020年から2021年の間に3380万ドルから7510万ドルに急増し、その後も上昇傾向が続き2023年に約1億490万ドルで対韓国輸入の頂点を記録した。韓国に次ぐ主要供給国及び地域は日本、台湾、ドイツ、中国の順だ。

トルコCNC機械輸入現況(HSCode845811基準)

(単位：US\$千、%)

順位	国家/地域	輸入額				
		2022	2023	2024	2025(～9月)	増減率('25/'24)
	全体	312,383	388,417	268,213	227,861	10.4
1	韓国	74,490	104,942	85,019	76,528	10.3
2	日本	57,731	93,083	58,860	56,488	38.1
3	台湾	123,530	117,631	43,446	27,599	-8.2
4	ドイツ	16,919	10,942	25,510	18,537	-25.3
5	中国	11,329	19,804	20,802	12,953	-19.0
6	タイ	1,006	5,768	2,458	9,699	941.4
7	アメリカ	3,263	1,904	913	7,120	1233.2
8	オーストリア	3,465	2,085	3,857	5,980	194.4
9	イタリア	4,612	7,821	4,822	4,052	-0.7
10	スペイン	5,619	7,278	3,137	3,670	83.7

競争動向

トルコの工作機械産業は最近数年間にわたり急速に拡大し、関連企業数は2019年2,464社から2023年3,280社に増加し、2024年には約3,500社水準に到達したと推定される。このような成長は、技術基盤の生産設備、デジタル化、自動化に対する産業全般の需要が反映された結果だ。現在、産業生態系は工作機械製造企業だけでなく、技術供給企業、エンジニアリングサービス企業、アフターサービス提供企業などで構成された幅広いネットワークに拡張されている。これはバリューチェーン全般で専門化が深化していることを示している。

しかし、CNC機械分野に限っては、市場の輸入依存度が依然として高い。FFG（ドイツ）、DMC（台湾）、Smec（中国）、Hanhwa（韓国）、YCM（台湾）、Femco（台湾）、Haitian（中国）、Okuma（日本）、Index&Traub（ドイツ）などアジアとヨーロッパを中心とした海外メーカーが技術的性能と幅広い製品ポートフォリオを基盤に強い競争力を維持している。それにもかかわらず、産業構図は中堅規模のトルコ製造企業が公共インセンティブ、研究開発(R&D)プログラム、国産化政策などを基盤にCNC生産分野に次第に進入することにより、漸進的に変化している。

流通構造

トルコで輸入したCNC旋盤と加工センターは、主に公式代理店、機械流通業者、または専門物流企業を通じて供給される。国内で製造されたCNC機械は概して生産業者が直接販売するが、一部の製造会社は仲介販売パートナーと協力したりもする。また、市場には新規及び中古装備を全て取り扱う多数の中古機械商とマルチブランド機械流通業者が存在し、産業全般にわたって幅広い流通構造を形成している。

主な需要先は金属加工、自動車、防衛産業、航空宇宙、医療機器、一般機械製造などの分野の大企業及び中堅メーカーだ。このような直接的な需要先以外にも、より広い産業生態系がCNC加工力量に依存している。家電製品製造業者、建設装備生産企業、専門下請け業者など多くのダウンストリーム製造企業は、独自部品生産のために内部的にCNC装備を運営すると同時に、必要時に金属加工供給業者からCNC加工部品を調達することもある。

関税率及び認証

トルコ/韓国FTA規定により、HSコード8458.11に該当する韓国産CNC機械は0%関税恩恵を受けることができる。ただし、この免税特典は船籍国ではなく純粋な韓国産原産地に厳格に依存するという点に留意しなければならない。例えば、日本産CNC機械が韓国を経由してもFTA恩恵は適用されない。原産地は原産地証明書(Certificate of Origin)または承認された送り状宣言書を通じて確認されなければならない。CNC機械は輸入時に10%付加価値税(VAT)の適用を受け、該当費用は一般的に輸入者が負担する。

中古または再生CNC機械の場合、トルコは「最小価値(minimum value)制度」を適用する。この制度により、一部の機械は申告送り状の金額と関係なく、政府が定めたkg単位の基準価格を根拠に課税されることができ、これは最終輸入費用に相当な負担として戻ってくるることができる。合わせて中古機械は輸入許可を受けなければならない、事前に貿易部の承認が必要だ。申請時には技術仕様と写真資料を含めなければならない、公式承認後にのみ搬入が許される。このような機械が投資インセンティブ証明書の下で輸入される場合、企業は付加価値税(VAT)の恩恵を適用され、生産能力の拡張またはアップグレード時に相当な費用節減効果を得ることができる。

また、トルコに輸入されるCNC機械は、CE宣言の要件を満たさなければならない、通関過程でTSE(トルコ標準機構)の検査を受ける。機械類のような一部の製品群は、製品の安全性と適合性を確認するために、TSEの義務的な通関検査を経なければならない。具体的には、EU機械指針(2006/42/EC)を遵守しなければならない、メーカーが準備した必須技術試験と関連文書を備えなければならない。

機械には必ずCE認証マークと共にメーカー名、ブランド、モデル、製造年度が含まれた適正CEラベルが貼られなければならない。東証検査は機械がTurkeyに到着した後に進行されるが、通関遅延や非適合問題を防止するためにすべてのCE認証関連文書は船積み前に完全に準備され検証されなければならない。

示唆点

トルコの成長するCNC機械市場は、韓国企業に相当な機会を提供する。特に韓国は精密加工と自動化技術で強い競争力を土台に主要供給国として認められている。航空宇宙、防衛産業、自動車産業での需要増加は高性能CNC装備の輸入を持続的に支え、この分野で韓国メーカーは強い競争優位を維持している。また、製造業全般のデジタル転換推進は多様な産業分野でCNC機械類の需要が拡大する可能性を提供する。最近、金融的制約によって中古及びレンタルCNC機械に対する需要が増加しているという点もまた、韓国供給業者に追加的な商業チャンネルの可能性として映る。

長期的には、政府のCNC国産化支援政策を活用する新興のトルコ製造業者によって、韓国の優勢な市場地位が牽制される可能性もある。トルコ国内製造業者の技術力はまだ初期段階にあるが、主要国営防衛産業企業が運営する供給業者開発プログラムの支援を受け、今後技術力と生産能力が次第に向上するものと予想される。このようなプログラムは現地製造業者が国際基準に符合する製品品質と生産標準を達成するように助けると同時に、防衛産業サプライチェーンの一環として編入され安定的な需要を提供することができる。

したがって、韓国企業は輸出戦略のフォーカスを現地化戦略と並行して、トルコの産業政策の優先順位に符合するように調整することが重要だ。トルコ産業の漸進的に現代化され、高付加価値製造に転換する構造的変化に迅速に適応及び対応することが持続的に競争力のある立地を確保する戦略になるだろう。

(kotra海外市場ニュース 2025年12月12日)

資料：LantisGlobalTrade&Logistics,ETASIS,EkolBelgelendirme,VERTACERT,TIAD,MAKFED,EKO Haber,MaktekExpo,Euromonitor,GlobalTradeAtlas,ekonomim,KOTRA

https://dream.kotra.or.kr/kotranews/cms/news/actionKotraBoardDetail.do?SITE_NO=3&MENU_ID=190&CONTENTS_NO=2&bbsGbn=254&bbsSn=254&pNttSn=236861

◆ EU 通商政策動向

EU7 加盟国が 2035 年内燃機関車禁止の撤回／修正を要請

欧州委員会は、12月16日に自動車パッケージの一環として、2035年内燃機関車禁止措置の見直しを提案する予定である。それに先駆けブルガリア、チェコ、ドイツ、ハンガリー、イタリア、ポーランド、スロバキアの7加盟国は禁止措置を撤回または修正するよう求める共同書簡を欧州委員会に送った。署名国は、ハイブリッド車、水素、バイオ燃料を含めた「技術中立」アプローチを支持している。

(Euronews記事 2025年12月8日)

産業加速法：欧州委員会が太陽光パネル・自動車の 70%現地調達要件を検討

JBCE・JMCブリュッセル及びJEITA/JMTBA/JLMC欧州が入手した情報によれば、欧州委員会は、来年1月28日に提案予定の産業加速法の下で、自動車や太陽光パネル向けに最大70%を欧州産部品とする現地調達要件を検討しているという。これに対しBMWは、複雑な原産地の計算は危険でありイノベーションを阻害すると警告。日英などの主要生産拠点や友好国を対象に含めるよう要請している。一方、自動車部品サプライヤー団体CLEPAや再エネ企業、電池業界(RECHARGE)などは、現地調達要件は雇用保護と投資確実性に不可欠と主張している。

(EU政策ウィークリー 2025年12月14日)

CBAM 拡大：欧州委員会が自動車ドア、園芸工具、洗濯機、コンロの対象拡大を検討

JBCE・JMCブリュッセル及びJEITA/JMTBA/JLMC欧州が入手した情報によれば、欧州委員会は12月16日に提案する炭素国境調整メカニズム(CBAM)の強化措置の一環として、CBAMの対象製品に自動車ドア、園芸工具、洗濯機、コンロなどの川下製品を追加することを検討しているという。また域外生産者が正確な排出データを提出できない場合に適用されるデフォルト値も引き上げるという(特に中国産鉄鋼などの炭素強度を高く見積もる新たなルールが検討されている)。

(EU政策ウィークリー 2025年12月14日)

◆ 欧州委員会が「自動車パッケージ」を発表、2035 年内燃機関車禁止を撤回

欧州委員会は、12月16日に「自動車パッケージ」を発表した。(1)乗用車・バンのCO2排出基準規則の見直し、(2)電池ブースター戦略、(3)クリーン社用車規則、(4)自動車オムニバス(小型EVイニシアティブを含む)、が盛り込まれた。

- 乗用車・バンのCO2排出基準規則の見直し：欧州委員会は、2035年以降の内燃機関車の新車販売禁止を見直し、100%排出削減目標を90%まで引き下げることがを提案。残る10%の排出量に関しては、メーカーは、EU産低炭素鋼の使用(最大7%)、または、e燃料・バイオ燃料の使用(最大3%)で相殺しなければならない。これにより2035年以降もPHEV車、REEV、マイルドハイブリッド、E燃料・バイオ燃料車が認められる。また2035年までは、EU製小型EVに「スーパークレジット」を与えることも提案(1.3台としてカウント)。EVバンに関しては、2030年の目標を50%→40%に引き下げることがを提案した。
- クリーン社用車規則：欧州委員会は、2030年および2035年以降に大企業が新規で登録する社用車におけるゼロ排出車・低炭素車の国別の最低シェアを提案した(付け)。また、ゼロ・低排出への公的資金支援は「EU製」のみ認めることも提案。
- 電池ブースター戦略：電池生産支援をはじめ、原材料調達の確保、公正な競争条件の確保、需要創出(現地調達要件を含む)、R&I強化・技能確保、EUレベルでの調整のための措置を提案。具体的な規制提案は伴わない。目玉措置となるのは、欧州電池生産支援に15億ユーロの無利子融資を行う「バッテリーブースターファシリティ」の立ち上げである(2026年Q1に募集開始)。
- 自動車オムニバス：新型乗用バン・トラック試験の合理化や電気バンに対する規制簡素化、自動車表示のアップデート・調和などを提案。(日本の軽規格のような)小型EVを対象とする新カテゴリーの創設も提案した(全長4.2メートルまで)。

(欧州委員会リリース、ウェブページ 2025年12月16日)

◆米国通商政策動向：IEEPA 訴訟

米国国際貿易裁判所の3人の判事からなる審理部は、トランプ政権の相互関税に異議を唱える訴訟において、米国輸入業者による暫定的な救済措置の申し立てを却下した。審理部は申し立てを却下したものの、その命令は政府がこれまで取ってきた立場を強調するものであり、政権の今後の訴訟姿勢に重大な影響を及ぼすものであった。

関税への異議申し立てが現在米国最高裁判所で審理されている輸入業者らは、貿易裁判所に対し、米国税関・国境警備局(CBP)による輸入通関手続きの清算を差し止めるよう求めていた。清算とは、CBPが関税評価を確定し、輸入通関手続きを締め切る行政手続きである。輸入業者らは、清算によって還付を受けることが困難になる、あるいは最高裁判所が最終的に関税を違法と判断した場合、還付を受ける能力が失われる可能性があるとして主張していた。

国際貿易裁判所は、要請された救済措置を認めず、国際緊急経済権限法(IEEPA)に基づき課された関税に関する最近の訴訟における政府の主張を鑑み、そのような命令は不要であると結論付けた。政府は、関税が最終的に無効とされた場合、還付請求に反対しないと一貫して主張してきた。

委員会は、政府は、係争中の最高裁判所事件であるV.O.S.セレクションズ対トランプ事件の最終判決を受けて、清算が還付の可否に影響を与えないという明確な立場を取っていると結論付けた。さらに判事らは、この立場をとった政府は、後日、反対の主張をすることは司法上の禁制を受けることになることと示唆した。

裁判所は、政府の現在の立場を、トランプ大統領の最初の任期中に中国製品に課された関税をめぐる以前の訴訟で政府が主張した立場と対比させた。その以前の訴訟において、政府は、清算が行われた後にCBPに対し通関手続きの再清算を命じる権限は貿易裁判所にはないと主張した。

委員会はまた、過去の中国関税訴訟の判例に言及し、関税が憲法違反に該当する場合、裁判所はCBPの確定申告を再度審査する権限を保持すると指摘した。最高裁判所が現在審査中のIEEPAに基づく関税を覆した場合、この権限は重要となる可能性がある。

命令発令後、バーンズ・リチャードソン&コルバーンのパートナーであるローレンス・フリードマン氏は、即時救済が認められなかったにもかかわらず、特に還付権が保持されたことに関して、この判決の重要性を公に強調した。同事務所が発行した勧告では、この判決は依然として控訴可能であると警告し、輸入業者に対し、IEEPA関連の関税支払いの詳細な記録を保管しつつ、今後の展開を注視するよう勧告した。

ジョージタウン大学ロースクール国際経済法研究所の客員研究員であるピーター・ハレル氏は、判決後の救済措置に関する裁判所の議論に焦点を当てた。同氏は、裁判官らがCBPに対し確定申告の再開を求める請願が認められる可能性は低いと考えているようだと言及し、最高裁判所が関税を無効とした場合、払い戻しにはCBPが新たに設置する行政手続き、あるいは影響を受ける輸入業者による訴訟のいずれかが必要となる可能性があることを示唆した。

訴訟が必要となる可能性は、重要な制約となる可能性がある。最高裁判所の判決時点で係争中の請求を抱えている輸入業者のみが払い戻しの対象となる可能性は依然として残っており、この点は口頭弁論で提起された問題である。係争中の請求を抱えていない輸入業者は、関税の将来的な撤廃という形でのみ救済を受けられる可能性がある。

ベーカー・ティリーのグローバル貿易アドバイザリー・サービス担当ディレクター、ピート・メント氏は、今回の裁判所の命令は、輸入業者が過度に不安を感じることなく手続きを進めるためのシグナルであると述べた。メント氏は、払い戻しの可能性がなくなることなく清算手続きが継続される可能性があることを強調し、関税に適切に異議を申し立てた輸入業者にとって、今回の判決は手続き上煩雑ではあるものの決定的なものではなく、訴訟が続く間も書類手続きと法的権利は依然として重要だと指摘した。

(Global USA 2026年1月3日)

◆米国通商政策動向：2026年の貿易協定

2026年が近づくにつれ、世界の貿易環境はより断片化され、安全保障を重視したモデルへと進化し続けている。多くの二国間および地域貿易協定が発効、あるいは交渉が進んでいる一方で、貿易政策は広範な自由化よりも、地政学的配慮、産業戦略、インフレ感応度によって形作られる傾向が強まっている。

近年交渉された複数の協定、特に英国と主要新興国が関与する協定は、2026年に発効予定である。これらの協定は、関税削減、原産地規則の明確化、規制協力を重視した、概ね従来型の構造となっている。インドなどの国々は、二国間協定を活用して輸出市場の多様化を図り、世界的な不確実性への対応を図るなど、特に積極的な貿易交渉者として台頭している。

同時に、米中関係は正常化というよりは、貿易デタント(緊張緩和)と形容される時期に入った。このデタントは、重要な外交交渉を前に、経済関係の安定化、エスカレーションリスクの低減、そしてグローバルサプライチェーンへの破壊的なショックの回避という相互利益を反映している。しかしながら、この緩和は範囲が限定的である。輸出管理、制裁権限、執行手段の構造的撤廃には及ばず、輸

出管理体制や国家安全保障体制における新たな事業体の指定も含まれていない。既存の規制、事業体リスト、コンプライアンス枠組みは引き続き完全に維持され、執行態勢は貿易自由化の目標ではなく、戦略および安全保障上の配慮によって引き続き形作られている。

こうした状況下、米国は2026年に新たな包括的な自由貿易協定を締結するとは予想されていない。むしろ、米国の貿易政策は、枠組み形式の取決め、対象を絞ったセクター別了解、そして既存のコミットメントの執行に引き続き重点を置いている。中心的な出来事となるのは、米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)の6年ごとの義務的な見直しである。この見直しによって協定が自動的に再開されるわけではないが、原産地規則、労働基準、紛争解決メカニズム、産業政策の調整について、構造的な圧力をかける機会が提供されます。このプロセスから生じる変化は、変革をもたらすものではなく、漸進的で政治的な交渉に基づくものになる可能性が高い。

アジア太平洋地域では、東アジア地域包括的経済連携(RCEP)などの大規模な多国間協定が2026年まで安定的に推移すると予想されている。各国政府は、デジタル貿易、サプライチェーンのレジリエンス(回復力)、クリーンエネルギー関連セクターへの関心が高まる中、協定の拡大よりも実施と遵守を優先している。

カナダとメルコスールの協議や、インドと中東およびインド太平洋諸国との連携など、2026年に進展すると予想される新たな交渉は、貿易の多様化と友好国との連携という、より広範な世界的な潮流を反映している。これらの交渉は、純粋な商業的自由化というよりも、経済安全保障の手段として捉えられることが多くなっている。

総じて、2026年は抜本的な改革というよりは、管理された貿易の安定が求められる年になりそうだ。特に大国間の緊張激化という主要なリスクは、現在のデタントの下で緩和されているものの、管理、執行機関、そして戦略的競争といった基盤となる構造は依然として健在である。したがって、発効間近あるいは交渉中の貿易協定は、過去数十年に比べて、対象範囲が狭く、よりのりを絞り、国家の政策目標とより密接に整合したものとなっている。

Trade Agreements and Policy Context Heading into 2026

Category	Agreement/Process	Status Entering 2026	Expected 2026 Developments
Entering into force	India-UK Comprehensive Trade Agreement	Negotiations concluded	Implementation and phased tariff reductions
Entering into force	UK-Türkiye Free Trade Agreement	Negotiations completed	Formal entry into force and regulatory alignment
Implementation phase	India-Australia Economic Cooperation	Agreement in force	Full tariff elimination on Indian exports
Under negotiation	Canada-Mercosur FTA	Active negotiations	Possible conclusion or framework outcome
Under negotiation	India-Israel FTA	Preliminary talks	Formal negotiation rounds expected
Under negotiation	India-Bahrain CEPA	Negotiation framework agreed	Launch of substantive negotiations
Major review	United States-Mexico-Canada Agreement (USMCA)	Mandatory six-year review	Incremental revisions or political bargaining
In force (stable)	Regional Comprehensive Economic Partnership (RCEP)	Fully implemented	Focus on implementation; limited expansion
Strategic context	U.S.-China trade relations	Trade détente in effect	Stabilization without rollback of export controls or new entity designations
Policy instruments	U.S. trade frameworks	Ongoing	Continued reliance on sectoral and enforcement-focused arrangements

(Global USA 2026年1月3日)

◆米国通商政策動向：2026 年国防権限法（NDAA）

米国下院は、2026会計年度国防権限法(NDAA)を可決した。この法案は、主に中国やその他の指定敵対国への戦略的依存を軽減することを目的とした、貿易安全保障、輸出管理、投資審査措置を含む立法パッケージを推進している。

この法案には、下院中国共産党特別委員会が提唱したいくつかの優先事項が盛り込まれており、その中には、中国の機密性の高い技術分野への米国からの対外投資に対する法的制限も含まれている。これらの規定は、人工知能、量子コンピューティング、半導体、および関連する戦略的技術などの分野における米国資本の進歩への支援を阻止することを目的としている。

NDAAには、米国の遺伝子データのセキュリティと医薬品サプライチェーンの脆弱性に関する懸念を理由に、指定された中国のバイオテクノロジー企業への連邦資金の支援を禁止するBIOSECURE法も盛り込まれている。追加措置により、国家によるスパイ活動や関連する脅威から、米国の高度な人工知能システムとデータセンターを保護することが強化される。

貿易関連安全保障規定は防衛産業基盤にも適用される。この法律は、中国産の原材料に依存する米国の防衛インフラの評価を義務付け、懸念される外国の事業体からの先進的なバッテリー調達の禁止を強化し、民間備蓄製造ネットワークを設立する。このネットワークは、緊急事態発生時に商業生産能力を防衛生産に迅速に転換することを可能にすることを目的としている。

下院外交委員会の指導者たちは、包括的対外投資国家安全保障法(COINS法)を含む、この法案に組み込まれている輸出管理関連の権限を強調している。この措置は、対外投資制限を中国だけでなくロシア、イラン、北朝鮮、キューバにも拡大し、対象となる技術の範囲を極超音速兵器やスーパーコンピューティングまで拡大する。

(Global USA 2026年1月3日)

◆米国通商政策動向：特定の先端半導体への 25% 関税

トランプ大統領は水曜日、特定の先端半導体に25%の関税を課す一方で、国内向け輸入機器については広範な適用除外を設けた。大統領は、追加的な貿易交渉を経て、政府がこの関税を半導体関連輸入品のより広範な範囲に拡大する意向を示す大統領布告に署名した。

1月14日のこの布告は、商務省が昨年4月に1962年通商拡大法第232条に基づき開始した半導体輸入に関する国家安全保障調査を受けて発効した。調査の結果、半導体、半導体製造装置、および関連派生製品の輸入量と輸入条件は、米国の国家安全保障と経済の安定に対する脅威であると結論付けられた。商務省は、国内半導体生産を支援するため、関税と貿易交渉の拡大を併せて活用することを勧告した。

これらの調査結果に基づき、政権は、特に人工知能(AI)分野に不可欠な特定の先進コンピューティングチップおよび関連派生製品の輸入に対し、25%の従価税を即時に課す必要があると判断した。この布告の付属文書には、関税発動の対象となる性能基準が定められており、ホワイトハウスの添付資料では、NVIDIAのH200チップやAMDのMI325Xなどの製品が例として挙げられている。

この布告には、米国に拠点を置くデータセンター、研究開発活動、消費者向けアプリケーション、および商務省が国内サプライチェーンまたは製造業を支援するとみなすその他の用途で使用するために輸入される半導体に対する広範な免除が含まれている。さらに、米国内で行われる修理または交換、新興企業での使用、データセンター以外の産業および消費者向けアプリケーション、公共部門での使用、および米国の技術サプライチェーンまたは国内製造能力を強化すると判断されるその他の目的で輸入されるチップにも免除が適用される。

同時に、大統領は商務省と米国通商代表部に対し、米国の半導体生産増加に向けた交渉を優先するよう指示した。政権は、これらの交渉の終結後、おそらく90日以内に、より包括的な第2段階の半導体関税枠組みを発表する予定である。

この大統領布告では第2段階の範囲や関税率は明確にされていないが、商務省が相当な税率でより広範な半導体関税を課すことを勧告したことが記されている。商務省はまた、これらの関税と、米国の半導体製造および関連サプライチェーンに投資する企業が特惠関税を受けられるような相殺プログラムを組み合わせることを提案した。ホワイトハウスによると、半導体およびその派生製品に対するより広範な関税、ならびに国内製造を促進するための付随的な関税相殺プログラムは、近い将来に実施される可能性がある。

(Global USA 2026年1月16日付)

◆米国通商政策動向：中国向け特定半導体に関する輸出許可審査方針の改訂

米国商務省産業安全保障局(BIS)は、中国向け特定半導体輸出に関する輸出許可審査方針を改訂する規則を公布した。改訂された方針に基づき、BISは、特定のセキュリティ要件が満たされていることを条件として、NVIDIA H200、AMD MI325X、および同等の先進チップの輸出許可申請をケースバイケースで審査する。

この規則は、トランプ大統領が2025年12月8日に発表した、国家安全保障戦略の一環として、H200および類似製品の中国の承認済み顧客への輸出を米国が許可すると発表したことを受けて制定された。

輸出許可を取得するには、申請者は中国への輸出によって米国の顧客が利用できる世界的な半導体生産能力が低下しないことを証明する必要がある。また、申請者は、中国の最終顧客が顧客審査手続きを含む適切な輸出コンプライアンス措置を実施していること、および製品が米国において独立した第三者機関による試験を受け、性能とセキュリティ特性を検証していることを示す必要がある。

商務省によると、この改訂されたアプローチは、輸出管理が技術開発に対応し続けつつ、国家安全保障を守り、米国の技術エコシステムを支援することを目的としている。

(Global USA 2026年1月16日付)

3. 工作機械関連企業動向

◆ Skoda 社、チェコ初のバッテリー駆動式電車が海外輸出へ

Skodaグループは、ŽOS Trnava社およびŽelezničná spoločnosť Slovensko社(ZSSK)と共同で、最大36両のバッテリー駆動式2両編成電気電車(BEMU)の納入に関する包括契約を締結した。総額は約3億3,200万ユーロ。スロバキアのSkodaは、来年最初の16両を購入する予定で、さらに20両の納入を延長するオプションも有している。この新型ゼロエミッション電車は、スロバキアの地域鉄道輸送の近代化を図り、非電化路線の一部ディーゼル列車を置き換え、乗客に電化区間と非電化区間の乗り換えを必要とせず快適な移動を提供する。新型電車の導入により、現行の運行と比較して年間最大数億キログラムのCO2排出量削減が見込まれる。列車の一部は、コンソーシアムパートナーであるŽOS Trnavaを通じてスロバキアで製造される。

「スロバキアにおいて、バッテリー列車はゼロエミッションの地域交通への迅速かつ現実的な道筋となると考えている。従来の電気車両の利点と非電化路線での運行を組み合わせ、インフラへの多額の投資は不要である。現代的で持続可能なモビリティに向けたこの重要な一歩において、スロバキア鉄道の技術パートナーとなることを大変嬉しく思う。バッテリー列車に関する当社の経験から、乗客は導入に大変満足しており、これらの路線の乗客数は最大数十パーセント増加していることがわかる」と、Skodaグループ取締役会副会長のトマーシュ・イグナチャーク氏は述べている。

Skodaのバッテリー電気車両は、ZSSKの車両群の中で最も近代的な車両の一つとなり、従業員の労働環境の改善にも貢献する。「ZSSKが代替推進システムを採用した公共鉄道輸送のパイオニアとなることを大変光栄に思う。スロバキアで初めて、ゼロエミッションの電気バッテリー列車を乗客に提供する。これらの16編成の列車は、電化路線と非電化路線の両方で運行できるため、旧式の自動車の代替に役立つ。このプロジェクトは、乗客の快適性を高め、従業員の技術面および労働環境を改善する、近代的で持続可能な鉄道というビジョンに合致している」と、ZSSKのCEOであるイヴァナ・ピニョソヴァ氏は付け加えた。

このプロジェクトの重要性は、欧州基金からの資金提供によっても強調されており、これにより鉄道輸送の近代化を加速すると同時に、利用可能な欧州の資源を有効活用することが可能になる。「欧州基金からのバッテリー電気ユニットへの資金提供は、スロバキアにおける近代的で環境に優しい鉄道輸送への道のりにおける重要な節目である。このプロジェクトは、革新的な技術と持続可能なモビリティを組み合わせ、欧州の資源を有効活用するものである。新しいバッテリーユニットは、乗客の快適性を向上させ、排出量を削減し、電化インフラが整備されていない地域における公共交通機関の発展に貢献すると信じている」と、スロバキア共和国運輸省のデニサ・ジラコヴァ次官は述べている。

バッテリーモードで最高時速 120km

新バッテリーユニットは、実績のあるパンター電気鉄道の設計をベースに、駆動用バッテリーシステムを搭載している。列車は、架線駆動時には最高時速160km、バッテリー駆動時には最高時速120kmで走行する。この駆動用バッテリーは、非電化区間で少なくとも80kmの走行距離を確保し、現在ディーゼル列車が運行しているほとんどの地域路線をカバーする。バッテリーは、運行中に架線と充電ポイントの両方から充電される。非電化区間では、ブレーキ時のエネルギーをバッテリーに回収することが可能である。

この列車は、157席の2両編成で設計され、欧州ETCSレベル2安全システムを搭載している。車内には、サロンと運転席にエアコン、車内Wi-Fi、小型電子機器の電源供給用USBポート付き230Vコンセント、身体の不自由な方、ベビーカーや自転車に乗った保護者の方々が快適に乗車できる低床アクセス、最新の情報システムなどが備えられている。静かでスムーズな運行により、この列車は環境への配慮を大幅に向上し、沿線住民への影響も軽減される。

環境への配慮

このバッテリーユニットのおかげで、スロバキアの国営鉄道会社は、一部の地域路線におけるディーゼル列車の運行を段階的に削減することが可能になる。架線のない区間で稼働する牽引線電力とバッテリーを組み合わせることで、現在のディーゼル運転と比較して、年間最大数百万キログラムの汚染物質と数千万〜数億キログラムのCO2排出量を大幅に削減できる。スロバキアには約3,630キロメートルの鉄道路線があるが、電化されているのはわずか1,585キロメートルであるため、バッテリーユニットは効果的な電力供給源となる。

これらの路線でもゼロエミッション輸送の割合を迅速に増やすことができる。

(Skoda Press Release 2025年12月3日)

◆ ThyssenKrupp、厳しい市場環境が続く中、堅調な業績を維持

- 2024/2025会計年度受注高は、377億ユーロで、前年比15%増となった。これは、船舶システム部門における大型受注が牽引役となっている。
- 2024/2025会計年度売上高は328億ユーロで、予想通りとなったが、厳しい市場環境の影響により前年比6%減となった。
- M&A前のフリーキャッシュフローは3億6,300万ユーロで、3年連続のプラスとなり、前年(1億1,000万ユーロ)を大幅に上回った。
- 配当の継続：1株当たり0.15ユーロの配当を提案

ミゲル・ロペスCEO：「新たな将来モデルの発表に伴い、昨年度はティッセンクルップの変革に向けた重要な決定を下した。ここ数ヶ月で、最初のマイルストーンを既に達成した。TKMSの株式上場は大きな成功を収め、鉄鋼事業の再編においては「鉄鋼再編」集団再編協定の締結により重要な進展を遂げた。」

2024/2025年度において、ティッセンクルップは、依然として厳しい市場環境の中、戦略的変革と事業パフォーマンスの両面で重要な進展を遂げた。新たな戦略的将来モデルであるACES 2030の発表は、当社の再編の枠組みを明確化した。ティッセンクルップAGは金融持株会社となり、事業は第三者からの投資を受け入れる独立したソリューションへと移行した。最初のマイルストーンは既に達成されている。

グループの包括的な変革の一環として、従業員の強力な社会保障の確保は引き続き重要な優先事項である。そのため、12月初旬、ティッセンクルップAGとIGメタルは、既存の枠組み合意を延長することで合意した。共通の目標は、個々の事業部門の競争力を強化しつつ、可能な限り長期的な雇用と拠点を確保することだ。

同時に、ティッセンクルップは2024/2025年度において事業基盤を維持した。前年比で受注は15%増加したが、これは主にマリンシステムにおける大型受注によるものである。売上高は需要と価格動向の変

動により328億ユーロに減少したが、調整後EBITは前年比13%増加した。この成長は、APEXパフォーマンス・プログラムによる好影響に支えられている。M&A前のフリーキャッシュフローは3年連続でプラスとなり、3億6,300万ユーロとなり、前年(1億1,000万ユーロ)を上回った。

「当年度は再び地政学的および経済的な課題に直面した。市場の不確実性の高まりと顧客需要の低迷により、当社の事業は顕著に抑制された。しかしながら、体系的な効率性の改善とコスト削減により、事業基盤を維持することができた」と、CEOのミゲル・ロペスは説明した。

2024/2025 年度：ティッセンクルップ・グループの主要指標

経済的な課題が継続する中、2024/2025会計年度グループの受注は前年度の328億ユーロから377億ユーロへと大幅に増加した。船舶システム部門では、受注が大幅に増加した。これは主に、ドイツ・ノルウェー共同の212CDプログラムにおける潜水艦4隻の受注を大幅に拡大したことと、シンガポールからの既存受注に2隻の潜水艦を追加したことによるものである。自動車技術部門では、顧客需要が依然として低迷しており、受注は前年度の水準を下回った。スチール・ヨーロッパおよびマテリアルサービス部門の受注状況も、需要と価格のさらなる下落の影響を受けた。脱炭素技術部門の数値は、全体として前年度の水準を下回った。

会計 2025/2026 年度予測：調整後 EBIT は 5 億ユーロから 9 億ユーロを予想

厳しい市場環境が継続していることも、当年度の見通しに影響を与えている。

ティッセンクルップは、会計2025/2026年度の売上高がマイナス2%から1%の範囲で推移すると見込んでいる。特に、マテリアルサービス部門とスチール・ヨーロッパ部門では需要増による成長が見込まれるが、オートモーティブテクノロジー部門とデカーボンテクノロジー部門の相殺効果によって相殺される。

純利益は8億ユーロから4億ユーロを見込んでいる。特に、この数字にはSteel Europeにおける事業再編引当金の設定が含まれている。

ティッセンクルップAGのCFO、アクセル・ハマン博士は次のように述べている。「当社の予測は、依然として厳しい市場環境と、各事業セグメントにおける効率化および事業再編策を考慮に入れている。特に鉄鋼事業と自動車技術事業において、今年度計画され、既に織り込まれている施策を通じて、持続的な収益向上の基盤を構築している。中期的には、引き続き財務目標の達成に注力していく。グループ全体で調整後EBITマージン4〜6%の達成を目指しており、これはM&A前のフリーキャッシュフローの大幅なプラス効果と、株主への安定した配当支払いを実現するものである。」

事業セグメントの戦略的展開

ティッセンクルップは、戦略的将来モデル「ACES 2030」を推進している。長期的な目標は、すべての事業を段階的に独立型ソリューションへと移行し、第三者からの投資を受け入れることである。ティッセンクルップAGは、強力で独立した企業への過半数投資を統括する金融持株会社へと転換する。各セグメントの独立性は、各セグメントの起業家精神の自由度を高め、新たな成長の可能性を提供することを目指している。具体的には、意思決定権の拡大、投資およびマーケティングに関する意思決定の柔軟性の向上、そして資本市場への個別アクセスです。同時に、新しい組織構造は、独立系企業により大きな責任を与え、透明性を向上させる。

オートモーティブテクノロジー部門は、依然として厳しい市場環境の中で事業を展開しており、3月に開始したグローバル効率化プログラムを体系的に実施している。これには、コスト削減、プロセス最適化、サポート機能の統合が含まれる。約1億5,000万ユーロのコスト削減を計画しており、これを実現するために、コーポレート機能と管理部門で約1,800人の人員削減を実施する。また、2025年10月1日付けで、同セグメントは、潜在能力を最大限に活用し、収益性の高い成長を目指すため、顧客と技術に重点を置いた4つの事業ユニットに事業を再編した。同時に、オートモーティブテクノロジー部門はポートフォリオの調整に注力している。オートモーティブボディソリューション、オートメーションエンジニアリング、スプリング&スタビライザーの各事業ユニットは、それぞれ独立した事業として存続する。この点に関して、ティッセンクルップは、パートナーシップや新たな所有モデルといった戦略的選択肢を検討している。こうした状況を受け、オートメーションエンジニアリング部門の中核事業をAgile Robots SEに売却する計画が2025年11月に開始された。取引の完了は、通常の規制当局の承認を条件としており、今後数ヶ月以内に完了する予定。

(Thyssenkrupp Press Release 2025年12月9日)

◆ SNT ホールディングス「工作機械・スマートファクトリー企業『SMEC』経営参加」

SNTホールディングスは25日、株式372万8,468株(発行済株式総数の約5.46%)を追加取得し、その保有目的を「単純投資」から「経営権に影響を与えるための目的」に変更すると公示したと発表した。

今年7月14日まで、単純投資目的でSMECの株式1,005万7,771株(特官社を含め発行済株式総数14.74%に当たる)を取得し、現在SMECの筆頭株主だ。

今回の株式取得を通じて、SMECの株式を計1,378万6,239株(発行済株式総数の20.2%に当たる)保有することになった。

「今回のSMECに対する経営参加宣言は工作機械及びロボット産業の技術パラダイムが急変している現時点で、会社の未来競争力確保のために工作機械、ロボット、スマートファクトリーなど融合複合事業分野に対する投資を拡大するためのもの」と明らかにした。

続けて「SNTグループの正道経営、透明経営、責任経営を基盤とした経営参加を通じて、内外の悪材料及び経営条件を克服し、窮極的に全株主の権益を向上するための目的でなされたもの」とし「今後、株主、顧客、協力会社など利害関係者との疎通を強化し、企業価値向上のための努力を尽くしていく」と付け加えた。

(世界日報 2025年11月25日付)

<https://www.segye.com/newsView/20251125510974?OutUrl=naver>

◆ Hurco 社、2025 年会計年度第 4 四半期および通期業績

Hurco Companies, Inc. (Nasdaq : HURC) は、2025年10月31日を期末とする2025会計年度第4四半期および通期の業績を発表した。Hurco社は、2025年度第4四半期の純損失が3,041,000ドル(希薄化後1株当たり0.47ドル)となり、2024年度の同時期の純損失1,442,000ドル(希薄化後1株当たり0.23ドル)と比較して減少した。Hurco社は、2025年度通期の純損失が15,117,000ドル(希薄化後1株当たり2.34ドル)となり、2024年度の同時期の純損失16,608,000ドル(希薄化後1株当たり2.56ドル)と比較して減少した。2025年度および2024年度の純損失には、法人税等引当金に計上されたそれぞれ4,778,000ドルおよび8,590,000ドルの非現金税務評価引当金が含まれている。

2025会計年度第4四半期の売上およびサービス手数料は45,467,000ドルで、前年同期比8,235,000ドル(15%)減少した。また、財務報告のために海外売上高を米ドルに換算した際に、882,000ドル(2%未満)の為替変動によるプラス影響が含まれている。2025年度の売上・サービス手数料は1億7,855万4,000ドルで、2024年度と比較して803万ドル(4%)減少した。これには、財務報告のために海外売上高を米ドルに換算した際に、203万8,000ドル(1%)の為替変動によるプラス影響が含まれている。

グレッグ・ヴォロヴィッチ最高経営責任者(CEO)は次のように述べている。「当社の最大市場である米国とドイツは、年間で最も好調な四半期の受注と売上高で会計年度を終えた。これは、下半期に発生したトレンドの変化を反映しており、受注と売上高は上半期から下半期にかけて約5%増加した。関税やマクロ経済状況の逆風を受け、厳しい会計年度となったが、当社は事業戦略の継続的な改善に尽力し、米国とドイツ両国での絞ったリーダーシップの交代を実施した。新しいリーダーたちは、豊富な業界経験を持ち、実行、顧客エンゲージメント、そして成長に重点を置いた人材だ。この期間の業績は、規律ある実行への注力を示している。キャッシュは前年比で約1,500万ドル増加し、販売費および一般管理費は前年比で約300万ドル削減した。同時に、革新的な技術への投資も継続した。2026年度を見据え、Hurcoは強固なバランスシート、さらに強力な経営陣、そして優れた製品ポートフォリオによって、このサイクルを乗り切ることができると確信している。長期的な成長をサポートする。」

以下の表は、2025年10月31日および2024年10月31日を期末とする第4四半期および会計年度の地域別の純売上高およびサービス料を示している。

(単位：千ドル)

	Three Months Ended October 31				Fiscal Year Ended October 31			
	2025	2024	\$ Change	% Change	2025	2024	\$ Change	% Change
Americas	\$18,234	\$23,331	(\$5,097)	(22)%	\$68,604	\$72,317	(\$3,713)	(5)%
Europe	23,475	25,381	(1,906)	(8)%	90,863	94,919	(4,056)	(4)%
Asia Pacific	3,758	4,990	(1,232)	(25)%	19,087	19,348	(261)	(1)%
Total	\$45,467	\$53,702	(\$8,235)	(15)%	\$178,554	\$186,584	(\$8,030)	(4)%

2024年度の同時期と比較して、2025会計年度第4四半期および2025年度の南北アメリカ地域の売上高はそれぞれ22%および5%減少した。これは主に、第4四半期における機械モデル出荷構成の変化による。売上高の減少は、Hurco 5軸立形工作機械およびエントリーレベルのHurcoおよびMilltronics 3軸工作機械の出荷数の減少に起因しており、高性能Hurco 3軸立形工作機械および多軸旋盤の売上増加によって一部相殺されている。2025会計年度第4四半期および2025年度の機械モデル出荷構成の変化により、ドルベースの売上高は前年同期比で減少したが、南北アメリカ地域における機械出荷量は、2024年度から2025年度にかけて、四半期および会計期間全体で増加した。

2025会計年度第4四半期の欧州の売上高は、前年同期比で8%減少したが、これは財務報告目的で外国売上高を米ドルに換算した際に4%の為替のプラス影響を含んでいる。欧州での第4四半期の売上高が前年同期比で減少したのは、主に英国、ドイツ、イタリアにおけるHurco 5軸立形機の出荷量の減少と、欧州全域でのMilltronics機の出荷量の減少による。2025会計年度の欧州の売上高は、2024会計年度比で4%減少したが、これは財務報告目的で外国売上高を米ドルに換算した際に2%の為替のプラス影響を含んでいる。欧州での売上高が前年同期比で減少したのは、主にドイツとフランスにおけるHurco 5軸立形機とエントリーレベルのHurco 3軸機、およびLCM Precision Technologies S.r.l.が製造した電気機械部品と付属品の出荷量の減少による。LCMは英国におけるHurcoマシンの出荷量の増加により一部相殺された。

2025年度第4四半期および通期のアジア太平洋地域の売上高は、2024年度の同時期と比較してそれぞれ25%および1%減少した。また、財務報告のために海外売上高を米ドルに換算した場合、各期間には1%未満の為替変動によるマイナスの影響が含まれている。両期間におけるアジア太平洋地域の売上高の減少は、主にインドおよび中国におけるHurcoマシンの売上減少によるもので、アジア太平洋地域全体におけるTakumiマシンの売上増加により一部相殺された。

2025年会計年度第4四半期の受注額は46,509,000ドルで、2024年度の同時期と比較して4,568,000ドル(9%)減少した。また、海外受注を米ドルに換算した場合、839,000ドル(2%)の為替変動によるプラスの影響が含まれている。2025年度の受注額は1億7,129万ドルで、2024年度比2,701万2,000ドル(14%)減少した。これは、海外からの受注額を米ドルに換算した場合、176万1,000ドル(1%未満)の為替変動によるプラス影響を含んでいる。

以下の表は、2025年10月31日および2024年10月31日を期末とする第4四半期および会計年度における地域別の新規受注額を示している。

(単位：千ドル)

	Three Months Ended October 31				Fiscal Year Ended October 31			
	2025	2024	\$ Change	% Change	2025	2024	\$ Change	% Change
Americas	\$22,003	\$21,221	\$782	4%	\$69,148	\$76,711	(\$7,563)	(10)%
Europe	20,839	23,876	(3,037)	(13)%	81,569	99,633	(18,064)	(18)%
Asia Pacific	3,667	5,980	(2,313)	(39)%	20,573	21,958	(1,385)	(6)%
Total	\$46,509	\$51,077	(\$4,568)	(9)%	\$171,290	\$198,302	(\$27,012)	(14)%

2025会計年度第4四半期の南北アメリカ地域における受注は、2024会計年度の同時期と比較して4%増加した。この受注増加は主に、HurcoおよびTakumi工作機械に対する顧客需要の増加によるもので、Milltronicsツールルームおよび3軸立型工作機械、ならびに当社の完全子会社である代理店が販売するHurcoブランド以外の工作機械の需要減少によって一部相殺された。2025会計年度の南北アメリカ地域における受注は、2024会計年度と比較して10%減少した。この受注減少は主に、顧客需要がHurco 5軸立型工作機械、Milltronics工具室および3軸立型工作機械、ならびに当社の完全子会社である代理店が販売するHurcoブランド以外の工作機械から、Hurco旋盤およびエントリーレベルおよび高性能のHurco 3軸立型工作機械の増加にシフトしたことによる。

2025会計年度第4四半期および通期の欧州からの受注は、それぞれ前年同期比で13%および18%減少した。これは、外国からの受注を米ドルに換算した場合、それぞれ4%および2%の為替変動によるプラス影響を含んでいる。両期間における受注の前年同期比減少は、主に英国、ドイツ、フランスにおけるHurcoおよびTakumiマシンの顧客需要の減少、ならびにLCM社製の電気機械部品および付属品の需要の減少による。

2025会計年度第4四半期および通期のアジア太平洋地域からの受注は、それぞれ前年同期比で39%および6%減少した。これは、外国からの受注を米ドルに換算した場合、それぞれ1%未満の為替変動によるマイナス影響を含んでいる。両期間におけるアジア太平洋地域からの受注の減少は、主に中国およびインドにおけるHurcoマシンの顧客需要の減少による。

(Hurco News Release 2026年1月9日)

4. 展示会情報

◆ IMTEX2027 日本パビリオン出展募集

インド最大級工作機械展

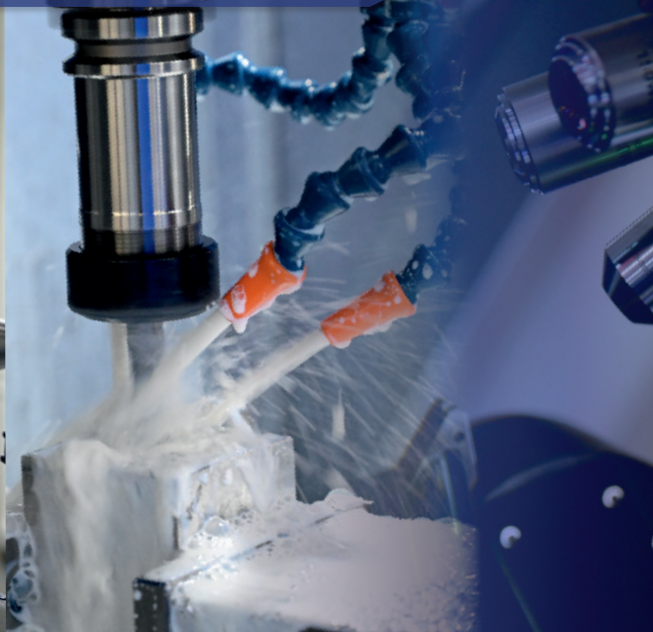
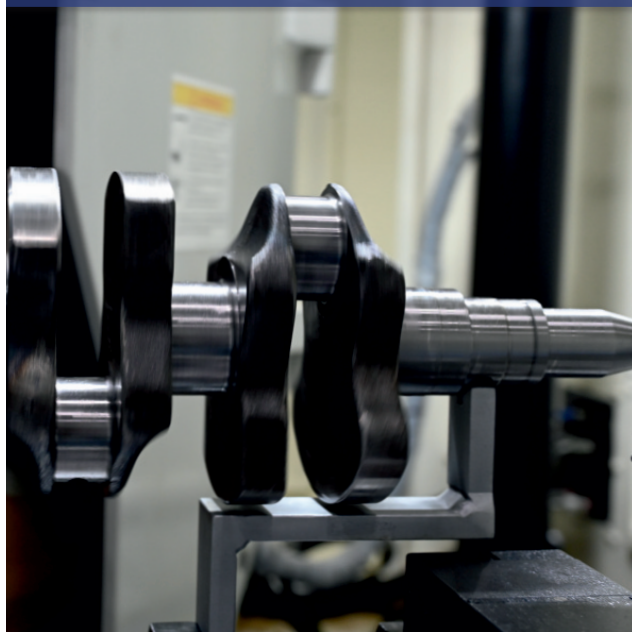


日本パビリオン
出展募集

IMTEX 2027

日程: 2027年1月21日(木)~27日(水)

会場: バンガロール・国際展示場(BIEC)



主 催

会 場



インド工作機械工業会

Indian Machine Tool
Manufacturers' Association



バンガロール国際展覽センター



「メイク・イン・インド」

同時開催



インド首相
ナレンドラ・モディ

製造業の発展による経済成長が期待される、
これからのインド

「メイク・イン・インド(インドでモノづくりを)」
を新たな産業政策に掲げ、モディ首相は、製造業を
軸とした経済成長を実現しようとしています。政府が
規制緩和やインフラ整備に積極的に取り組んでいる
ことから、世界のメーカーがインドでの事業拡大に
動き始めています。



ツールテック展示会



デジタルマニュファクチャリング展示会

日本パビリオン共同運営



一般社団法人

日本工作機械工業会

日本代表事務局



特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー

運 営



日印コンサルティング株式会社

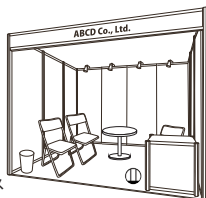
IMTEX 2027(インド工作機械展) 出展のご案内



出展費用

A パッケージブース 365USD/m² (Min.15m²) +TAX

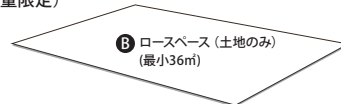
- ① 貴社名の展示会ガイドブック記載
- ② スペース
- ③ 出展者/バッジ (数量限定)
- ④ 受付カウンター1台
- ⑤ 会議用丸テーブル1台
- ⑥ 椅子3脚
- ⑦ スポットライト (100w) 4個
- ⑧ 電源1ヶ所
- ⑨ ゴミ箱1ヶ所
- ⑩ カーペット



A パッケージブース (最小12m²)

B ロースペース 330USD/m² (Min.36m²) +TAX

- ① 貴社名の展示会ガイドブック記載
- ② スペース
- ③ 出展者/バッジ (数量限定)



B ロースペース (土地のみ) (最小36m²)

C 1コーナー出展 1,500USD / 1コーナー + TAX

展示台とパネルがセットになった出展です。
パネル印刷費用は含まれています。
パネルデザイン費用と輸送費用は含まれておりません。

※ 上記A,B小間費用にはインド消費税18%が別途掛かります。
※ 電気料金は別途費用になります。
※ 角ブースは別途費用がかかります。
2面オープン+20% / 3面オープン +30% / 4面オープン +50%
※ 運営管理費用15%

日本パビリオン

装飾

- 装飾業務
設計・施工・デザイン/レイアウト・企画運営進行管理・現場監督
- その他の関連業務
 - 制作物業務
パンフレット・フライヤー・製品カタログ/パネルデザイン/運営進行管理
 - 映像業務
VJ・ビデオ製作・ナレーション/吹き替え・レイアウト企画運営進行管理
 - 運営関連業務
セミナー・ノベルティ・コンパニオン・通訳・ナレーター・レセプションアレンジ

輸送

- 日本からの一括輸送を致します。
輸出通関申告費用/税関検査関係費用/税関出張費用/検査立会費用
カルネ手配費用/船積み諸経費/保税上屋入出庫費/保税上屋運送費
コンテナ積み込み費/コンテナ維持費/海上運賃/船積書類
及び通関書類/輸入地費用/維持費/貨物上屋入出庫費
コンテナ引取費/会場内運搬費/開梱費用/据付補助費
空箱コンテナヤード運送費/その他現場運営管理費

*展示会主催者の規定によりオフィシャルフォワードが指定されております。

出展までの日程フロー

2025年



出展者検討中の方は仮申し込みをおすすめ致します

- ※ ノンオブリゲーションで仮押さえさせていただきます。
- ※ スペースが無くなり次第、出展募集は締め切らせて頂きます。

仮申し込み締め切り日

- 1st 2026年2月27日(金)
- 2nd 2026年3月27日(金)
- 3rd スペースがあれば可能

2026年



展示会コンサルティング及び実務サポートのご案内

- ① コンサルティング・リサーチ(売上に直結する)
- ② マーケティング・販売戦略・企画・運営・実働
- ③ プロモーション・PR (展示会事前PR・ミーティングセットアップ)
- ④ 展示会企画運営実行
- ⑤ セミナー・コンファレンス・学会企画運営実施
- ⑥ 貿易実務・ロジスティック・据付
- ⑦ 法人設立 (事務所/ショールーム/工場ロケーション提案等)
- ⑧ BIS取得サポート
- ⑨ 人材サポート (高度技術スタッフ、技術指導員、エンジニア、SE等)

お申し込み・お問い合わせ

出展申込は右記QRコード、またはメールでご連絡ください。 [出展申込リンク](#)



日本代表事務局

JIB 特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー

運営

JIC 日印コンサルティング株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂1-3-13 溜池鈴木ビル3F

担当 安井 ☎ 090-9325-3456 橋倉 ☎ 080-6516-4331 ✉ info@ji-consulting.jp

HP <https://ji-consulting.jp>



一般社団法人
日本工作機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館1階

担当 本多 ☎ 03-3434-3961 (代表)

✉ honda@jmtba.or.jp

5. その他

◆ユーザー産業動向

燐レナルファ系トキ、ルーマニアで 150MW 蓄電池事業を買収

再生可能エネルギー開発を手がけるオーストリアのレナルファ・グループの独アグリゲーション子会社、トキ(Toki)・パワー・ホールディングは5日、ルーマニアで出力150メガワット(MW)のバッテリーエネルギー貯蔵システム(BESS)プロジェクトを買収したと発表した。大規模蓄電資産をポートフォリオに組み込み、東欧市場での事業基盤を強化する。プロジェクトは2026年10～12月期(第4四半期)に商業運転を開始する見通しだ。

トキは、電力会社や需要家、再生可能エネルギー発電設備などを束ねるアグリゲーターとして事業を展開する。電力需給が逼迫した際には、需要家への節電要請などを通じて需給バランスの調整を担う。ユーリ・カタノフ最高経営責任者(CEO)は「ルーマニアは欧州連合(EU)域内でも特に成長性の高いエネルギー市場の一つだ。大規模BESSは系統の安定化に寄与するとともに、再生可能エネルギーの導入拡大を加速させる重要なインフラとなる」とコメントした。

同社はすでにブルガリア、北マケドニア、ハンガリーでも事業を展開している。ブルガリアでは出力110MWのBESSプロジェクトを取得しており、東欧での蓄電池事業の拡充を進めている。

(ess-news 12月12日付)

<https://www.ess-news.com/2025/12/12/toki-power-secures-300-mwh-standalone-bess-in-romania/>

ブルガリアのハイドロジェネラ、VW ポーランド工場向けに水素製造システム受注

ブルガリアの水素技術企業ハイドロジェネラ(Hydrogenera)は、独自自動車大手フォルクスワーゲン(VW)から、ポーランド・ボズナニ郊外のヴジェシニャ工場向けに水素製造システムを受注したと発表した。工場で使用する出力1.5メガワット(MW)の天然ガスバーナーの燃焼効率向上が目的で、燃料消費量を最大30%削減し、二酸化炭素(CO₂)排出の低減につなげる。専門誌『バルカン・グリーンエネルギー・ニュース』が10日に報じた。

同社は、最大出力90キロワット(kW)の電解装置を納入する。装置は既存設備を停止せずに後付けできる設計で、水1リットルから水素と酸素を2対1の比率で含む混合ガス約2立方メートルを生成する。水素はバーナー直前で天然ガスと混合し、酸素は燃焼室に供給する空気流に加えることで、燃焼効率を高める。

ハイドロジェネラは、欧州連合(EU)が水素生産拡大を目指して設立した「欧州クリーン水素アライアンス」に加盟する唯一のブルガリア企業。電気分解によるクリーン水素生産向けのモジュラー製品・システム開発を手がける。親会社のグリーン・イノベーションは、VWの正規サプライヤーとして環境・持続可能性評価のSレーティングを取得している。

(balkangreenenergynews 12月10日付)

<https://balkangreenenergynews.com/bulgarian-firm-hydrogenera-gets-electrolyzer-order-from-volkswagen/>

EnBW、独フィリップスブルクで 400MW 級蓄電池に最終投資決定

独エネルギー大手EnBWは、南西部フィリップスブルクのエネルギーパークで計画する大規模蓄電システムについて、最終投資決定(FID)を下した。設備規模は出力400メガワット(MW)、容量800メガワット時(MWh)で、政府補助に依存せずに建設される蓄電設備としてはドイツ最大級の一つとなる。

同社は2026年初夏に建設を開始し、2027年末の稼働を予定する。蓄電システムは理論上、約10万世帯の1日分の電力需要を賄える規模とされる。事業資金は、電力市場での売電収入や電力網支援サービスによる収益で確保する。電力網支援サービスは、周波数調整などを通じて送電網の安定運用と電力供給の継続性を支える役割を担う。

フィリップスブルクでは、2017年および2020年以降、2基の原子力発電所の解体作業が進められている。エネルギーパークに隣接するエリアには、独送電網運営会社TransnetBWが大規模な直流変電所をすでに整備した。これにより、北部で発電された風力電力を南西部へ送る直流連系線「ULTRANET」の一部として機能し、再生可能エネルギーの広域融通と系統安定化に寄与する。

(プレスリリース 12月9日付)

<https://www.enbw.com/presse/enbw-grossbatterispeicher-philippsburg.html>

韓国 Hylium、独 NRW 州エッセンに欧州拠点 水素液化の実証施設を計画

韓国の水素関連企業Hylium Industriesは、ノルトライン・ヴェストファーレン(NRW)州エッセンにあるエッセン・ガス熱研究所(GWI)内に新たな拠点を開設した。欧州市場への本格進出を見据え、水素液化技術のデモンストレーション施設を同研究所敷地内に整備する計画だ。水素液化プロセスの実証設備に加え、水素駆動ドローンを活用した試験の実施も検討している。

Hyliumは液体水素(LH₂)の貯蔵・輸送技術を開発しており、韓国政府や現代自動車(Hyundai)などがパートナーとして支援する。製品ラインアップには、コンパクト化した水素液化装置のほか、液体水素の貯蔵・輸送システム、移動式水素ステーションが含まれる。欧州拠点では当初1人体制で事業を開始し、将来的に最大4人規模まで拡大する方針だ。

同社はこれまでに累計4,000万ドル(約3,400万ユーロ)超を調達しており、中長期的には株式公開も視野に入れる。今回の拠点開設にあたっては、エッセン市の経済振興機関Essener Wirtschaftsförderungsgesellschaft (EWG)が市場参入プログラムを通じて支援した。同プログラムは、ドイツ市場進出を目指す海外テクノロジー企業を対象に、拠点設立から事業展開までを伴走型で支援する。水素・エネルギー関連産業の集積地であるエッセンの強みを生かし、実証と事業化の加速を後押しする。

(H2 News 12月8日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/suedkoreanische-wasserstoffunternehmen-eroeffnet-standort-in-essen/>

インフィニオン、走行中ワイヤレス給電向けに SiC 電力モジュール供給

独半導体大手インフィニオン・テクノロジーズは、イスラエルのElectreonが開発する走行中ワイヤレス給電システム(誘導式)向けに、炭化ケイ素(SiC)電力モジュール「EasyPACK 3B CoolSiC 2000V」を供給すると発表した。道路下に銅コイルを埋設し、走行中の商用車やバス、乗用車に非接触で電力を供給するシステムの中核部品として採用される。

同モジュールは、道路側に設置される電力変換装置に組み込まれ、電力系統からの電力を高効率で変換し、車載バッテリーへ連続的に給電する役割を担う。SiCを採用することでスイッチング損失や変換損失を低減し、システム全体の効率と信頼性を高めた。伝送性能は平均200キロワット(kW)、最大300kW超に達し、フランスのA10高速道路での実証試験で実測確認されている。

走行中給電により、車両は走行距離を確保したままバッテリー容量を小型化でき、車両重量やコストの削減につながる。Electreonはすでに米国、ドイツ、フランス、ノルウェー、ポルトガル、スウェーデン、イタリア、イスラエル、日本の試験道路で同技術を運用している。今後は長距離路線への本格導入プロジェクトへの展開を見込む。

(Next Mobility 12月4日付)

<https://www.next-mobility.de/infineon-und-electreon-setzen-auf-siliziumkarbid-fuer-kabelloses-ladesystem-a-b20b922c13fe533698f7b94f89968536/>

トタルエナジーズ、独アウトバーンで初の急速充電拠点開設

仏エネルギー大手TotalEnergiesは、ドイツ連邦政府が整備を進める高速充電網「ドイツュラント・ネッツ(Deutschlandnetz)」向けに、アウトバーン初となる急速充電拠点2カ所を開設した。拠点はバイエルン州エアランゲン近郊のA3高速道路沿い「Weißer Graben」休憩施設で、上下線それぞれに2口タイプの急速充電器を3台設置した。

全ての充電口で少なくとも200キロワット(kW)の出力に対応し、片側のみを使用する場合は最大400kWまで引き上げることができる。充電器には伊アルピトロニック製の「HYC400」を採用した。料金は都度課金方式で、1キロワット時(kWh)当たり0.79ユーロに設定されている。

TotalEnergiesは「ドイツュラント・ネッツ」において、地域区分(Regionallose)と高速道路区分(Autobahnlos)の両方を受注している。今回の開設は、高速道路区分に基づく初のプロジェクトとなる。連邦交通省は2023年、東・中部・西ドイツにまたがる計134拠点(総数1,100超の急速充電ポイント)を同社に割り当て、2024年には無人休憩施設33カ所向けに166基の充電ポイントを追加付与した。A3沿いの2拠点はこのうち高速道路区分に該当する。

同社はすでに地域拠点で40カ所以上の急速充電サイトを展開している。高速道路網での稼働開始により、長距離移動時の利便性向上を図る。TotalEnergies Charging Solutions Deutschlandのヤン・ペーターセン社長は、「ドイツュラント・ネッツは全国的な充電インフラ整備の中核を担う」と述べ、休憩と充電を同時に行える環境の重要性を強調した。

(electrive 12月3日付)

<https://www.electrive.net/2025/12/03/deutschlandnetz-erste-total-standorte-an-der-autobahn-eroeffnet/>

独 Accurec、リチウム電池から高純度リチウム回収の新施設開設

独リサイクル企業Accurecは、本社を置くクレフェルドに、使用済みリチウム電池からリチウムを回収する新施設を開設した。独自開発のリサイクルプロセス「CLIMA」を採用し、リチウム回収率と品質はいずれも99%超を達成できるとしている。年間処理能力は現時点では明らかにしていない。

Accurecは2022年、年間4,000トンの廃バッテリーからリチウムを回収する施設を2023年に稼働させる計画を示していたが、その後の進捗は公表されていなかった。今回開設した新施設は、これまでに発表してきた構想を具体化する取り組みの一環とみられる。

同社によると、新施設で採用するプロセスチェーンは、産業規模としては初導入となる技術で、リチウムイオン電池をはじめ多様な電池タイプに対応できる点が特徴だ。独自の熱化学プロセスにより、エネルギーや運用資源の消費を抑えつつ、重要原料を分離しやすい形に変換し、効率的な抽出を可能にする。

さらに、新施設では独Evonikと共同で進めてきた研究プロジェクト「EarLi*」の成果も活用する。同プロジェクトでは、高選択性セラミック膜を用いた電気化学的手法により、溶液中のリチウムを分離し、高純度の水酸化リチウム一水和物として回収する技術を検証してきた。Accurecは同技術を通じ、リチウム回収率の一層の向上を目指す。

(electrive 12月2日付)

<https://www.electrive.net/2025/12/02/accurec-weiht-lithium-recyclinganlage-in-krefeld-ein/>

アルジェリア発欧州向け水素輸送「ALTEH2A」、実現可能性調査を開始

アルジェリアから欧州への水素輸送を検討する国際プロジェクト「ALTEH2A (Algeria to Europe Hydrogen Alliance)」で、実現可能性調査が始まった。開始は12月上旬で、調査期間は2026年半ばまでを予定する。水素の生産拠点候補、輸送ルート、欧州市場の需要動向を総合的に評価する。

参加事業者は、独VNGとBayernets、アルジェリア国営のSonatrachとSonelgaz、伊Snam、SeaCorridor、奥Verbund。VNGとBayernetsは国際パートナーと連携し、アルジェリアから欧州への水素パイプライン構築について、技術面と経済面の妥当性を検証する方針を示した。

調査の中心となるのは、アルジェリア国内での水素生産候補地の特定と、既存構想である「SouthH2 Corridor」を活用した輸送ルートの評価だ。同回廊は全長約3,300キロメートルで、北アフリカとイタリア、オーストリア、ドイツを結ぶ計画となっている。欧州委員会は同ルートを共通利益プロジェクト(PCI)に指定しており、2025年にはアルジェリア、チュニジア、イタリア、オーストリア、ドイツが政治宣言に署名した。許認可手続きや投資調整を加速させる狙いがある。

企業側では、VNGが供給安定性の確保と産業の脱炭素化に向けた意義を強調。Sonatrachは地理的優位性と豊富な再生可能エネルギー資源を背景に、水素輸出拠点としての可能性を示した。

11月にベルリンで開催された関連イベントでは、輸入回廊の整備時期や長期オフテイク契約、需要側の確実性確保が主要論点となり、欧州と北アフリカの連携深化が今後の課題として浮き彫りになった。

(h2-news.de 12月1日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/machbarkeitsstudie-fuer-wasserstoff-import-aus-algerien-gestartet/>

中国・金杯電器、チェコに電磁線工場新設へ 欧州市場開拓を加速

中国の電線・ケーブル大手、金杯電器(Goldcup Electric Apparatus)は、欧州および海外顧客への供給体制を強化するため、チェコに電磁線工場を新設する計画を明らかにした。投資額は約7億元(約9,670万米ドル)に上る。中国の経済メディアYicaiが13日に報じた。

湖南省長沙市に本社を置く同社は、チェコ国内にある既存工場を取得・改修し、新たな生産拠点として活用する方針だ。新工場の当初の電磁線生産能力は年8,000トンで、2025年末から2026年初めにかけて稼働を開始する見通し。2028年までに年産2万トン規模へ引き上げる計画としている。

同社は、欧州で進む送電網の更新・増強や、新エネルギー車分野の拡大を背景に、電磁線需要が中長期的に拡大すると見込む。チェコ拠点の設立により、現地供給体制を整え、納期短縮や顧客対応力の向上を図る。

一方で、新工場の設立には株主および中国・チェコ両国の関係当局による承認が必要となる。金杯電器の財務資料によると、2023年の電磁線事業の売上高は50億元(約6億9,300万米ドル)で、全体の33%を占めた。製品は変圧器やモーター、太陽光・風力発電向けインバーター、超電導磁石などに用いられ、シーメンスやゼネラル・エレクトリック、フィリップスなどを顧客に持つ。

(yicaiglobal 12月13日付)

<https://www.yicaiglobal.com/news/chinas-goldcup-electric-to-invest-usd967-million-to-set-up-czech-electromagnetic-wire-plant>

エリクソンと MasOrange、AI 活用の自律型ネットワーク運用を強化

スウェーデンの通信機器大手エリクソンと、スペインの通信事業者MasOrangeは、AIを活用した自律型ネットワーク運用の強化に向け、「Ericsson Intelligent Automation Platform(EIAP)」を導入した。無線アクセスネットワーク(RAN)の自動最適化やエネルギー効率の向上を通じ、ネットワーク品質と運用効率の両立を図る。

EIAPは、サービス管理・オーケストレーション(SMO)と、AI駆動型アプリケーション(rApps)からなるオープンエコシステムで構成される。MasOrangeの商用ネットワークには、既存の「Ericsson Network Management (ENM)」を介して統合された。今回導入したrAppsは、ネットワーク性能の異常を事前に自動検知する「Ericsson Cell Anomaly Detector」と、RANの省エネルギー機能を動的に設定・監視・最適化する「Future Connections Nix RAN Energy Saver」の2種類となる。

SMOプラットフォームは、標準化されたアーキテクチャとインターフェースを採用し、Open RAN環境におけるマルチベンダーの相互運用性を確保する。異なるベンダーのネットワーク機能やrAppsを柔軟に組み合わせた運用が可能となり、運用自動化の高度化とコスト効率の改善につながるとしている。

(プレスリリース 12月10日付)

<https://www.ericsson.com/en/press-releases/3/2025/ericsson-and-masorange-advance-autonomous-networks-with-ai-driven-automation-platform-and-rapps>

NXP、EV 高電圧電池をリアルタイム監視する診断チップセット発表

オランダの半導体メーカーNXPセミコンダクターズは、電動自動車(EV)の高電圧バッテリーをリアルタイムで監視する新たなバッテリー診断チップセットを発表した。追加のセンサーやソフトウェアへの依存を抑えながら、安全性や寿命、性能の向上を図る。温度差や経年劣化、マイクロショートなど、セル内部で生じる微小な変化も検出できるという。すでに顧客とのプロトタイプ試験を終えており、2026年初頭の市場投入を予定する。

同チップセットは、電気化学インピーダンス分光法(EIS)を統合した初の車載向けバッテリー管理技術となる。EISをハードウェアベースで同期動作させることで、バッテリーパック内の全セルを高精度に監視できる。従来のソフト中心の手法では、ミリ秒単位的高速変化の検出に限界があり、安全な急速充電の実現には追加センサーが必要だった。

EIS自体は19世紀に原理が確立された技術で、1950年代からバッテリー分野で使われてきた。NXPはこれを車載チップセットに直接組み込み、走行中でもリアルタイム診断を可能にした点を差別化要素としている。

(ecomento 12月4日付)

<https://ecomento.de/2025/12/04/nxp-praesentiert-chipsatz-fuer-echtzeit-batteriediagnose-in-e-autos/>

車載中央計算基盤「CeCaS」プロジェクト完了 高度自動化に道

自動車の高度自動化に不可欠な中央計算基盤の確立を目指す独研究開発プロジェクト「CeCaS (Central Car Server)」が完了した。事業は2022年に始まり、総事業費は8,820万ユーロ。このうち連邦研究・技術・宇宙省(BMFTR)が4,620万ユーロを助成した。主導したのは独半導体大手Infineonで、フォルクスワーゲン(VW)傘下のCariad、Bosch、Continental、ZFのほか、複数のフラウンホーファー研究所や大学が参画した。

CeCaSの中核は、車載センサーに加え、道路側カメラやLiDAR、レーダー、周辺車両からの外部データを統合し、走行中に発生する大量データを即時処理する中央集約型アーキテクチャの開発にある。ミュンヘン工科大学(TUM)はロボティクス、AI、リアルタイムシステムの知見を提供し、2033年以降の車両世代を想定したソフトウェア定義車両(SDV)向け構造を構築した。

新アーキテクチャはGPUベースのシミュレーション環境と連携し、悪天候など自動運転が苦手とする条件を事前に学習できる。学習済みモデルを車両に搭載することで、実路走行時の即応性を高める。

従来車が数百の電子制御ユニット(ECU)を搭載するのに対し、CeCaSではプログラム可能な高性能計算ユニット数基に機能を集約する。機能更新はソフトウェアで対応でき、ハードウェア依存を大幅に低減する。

TUMはCariadが提供した「ID.BUZZ」を試験車両として用い、デジタルツインと組み合わせた検証を実施。過去の自動運転事故につながった条件も再現可能で、事前修正につながる点が評価された。

(electrive 12月1日付)

<https://www.electrive.net/2025/12/01/forschungsprojekt-cecas-entwickelt-supercomputing-plattform-fuer-hochautomatisierte-fahrzeuge/>

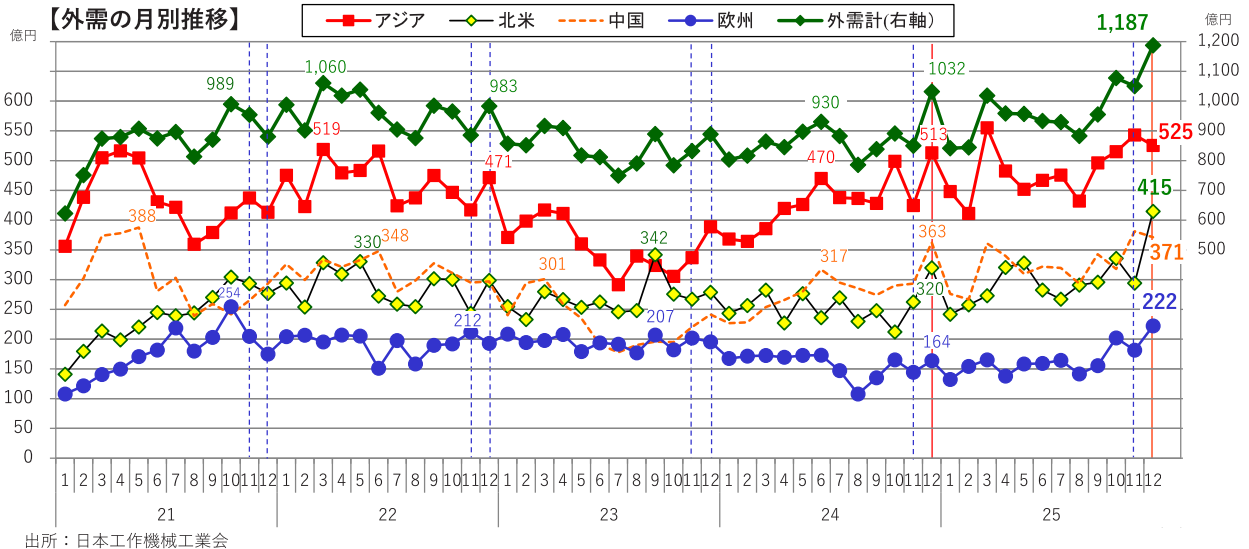
6. 日工会外需状況（12月）

外需【12月分】

1,187.4億円（前月比 + 13.1% 前年同月比 + 15.1%）

外需額

- ・前月比は2カ月ぶりの増加、前年同月比では15カ月連続増、3カ月連続の1,000億円超えで、外需では過去最高額。
- ・外需は、国際情勢の不透明感が払拭されない中、一部需要業種で投資が見られ、堅調増となっている。



外需【12月分】

主要3極別受注

①アジア

アジア計は、3カ月連続の500億円超え。

- 東アジアは、2カ月連続の400億円超え。
- 中国は、前月比で減少も2カ月連続の350億円超え。
2025年暦年で2番目に高い受注額。
- その他アジアは8カ月連続の100億円超え。
- インドは2025年暦年で3番目に高い受注額。

②欧州

欧州計は、前月比、前年同月比ともに増加で、4カ連続150億円超え。220億円超えは2021年10月以来（50カ月ぶり）。

- ドイツは、3カ月連続の40億円超え。
- イタリアは、3カ月ぶりに25億円を下回るも前年同月比で増加した。

③北米

北米計は、前月比、前年同月比ともに増加し、11カ月連続の250億円超。400億円越えは過去最高額。（2023年9月の341.7億円を更新）

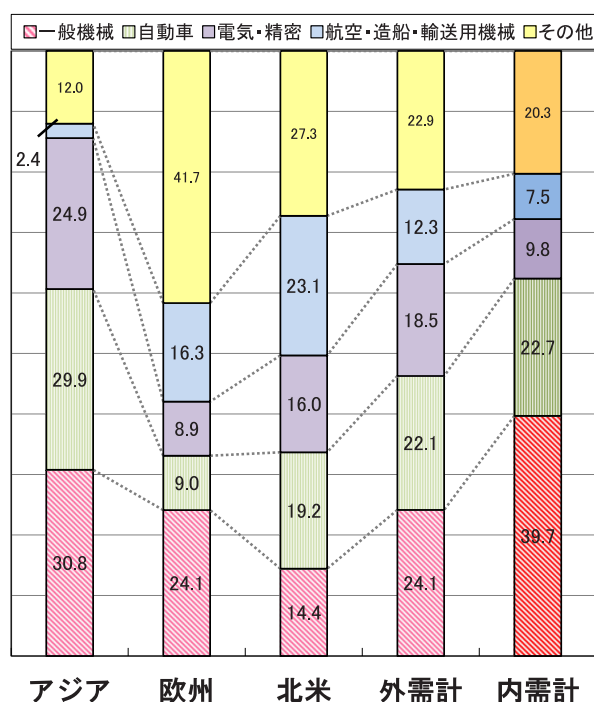
- アメリカは、過去最高の受注額。
（2022年5月の308.2億円を更新）
- メキシコは、過去最高の受注額。
（2016年5月の46.3億円を更新）

国・地域	受注額 (億円)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
アジア	525.4	△3.2 4カ月ぶり減少	+2.4 4カ月連続増加
東アジア	403.8	△5.6 2カ月ぶり減少	+0.2 4カ月連続増加
韓国	19.2	△32.2 2カ月連続減少	△20.0 4カ月ぶり減少
中国	371.3	△2.6 2カ月ぶり減少	+2.4 21カ月連続増加
その他アジア	121.7	+5.6 2カ月ぶり増加	+10.4 2カ月連続増加
インド	63.9	+8.3 2カ月連続増加	+26.4 2カ月連続増加
欧州	222.2	+22.5 2カ月ぶり増加	+35.7 6カ月連続増加
ドイツ	42.8	+2.7 2カ月ぶり増加	+47.2 5カ月連続増加
イタリア	20.7	△23.5 2カ月連続減少	+5.6 6カ月連続増加
北米	414.6	+40.9 2カ月ぶり増加	+29.6 5カ月連続増加
アメリカ	345.8	+31.0 2カ月ぶり増加	+19.5 11カ月連続増加
メキシコ	55.9	+218.1 2カ月ぶり増加	+307.1 4カ月連続増加

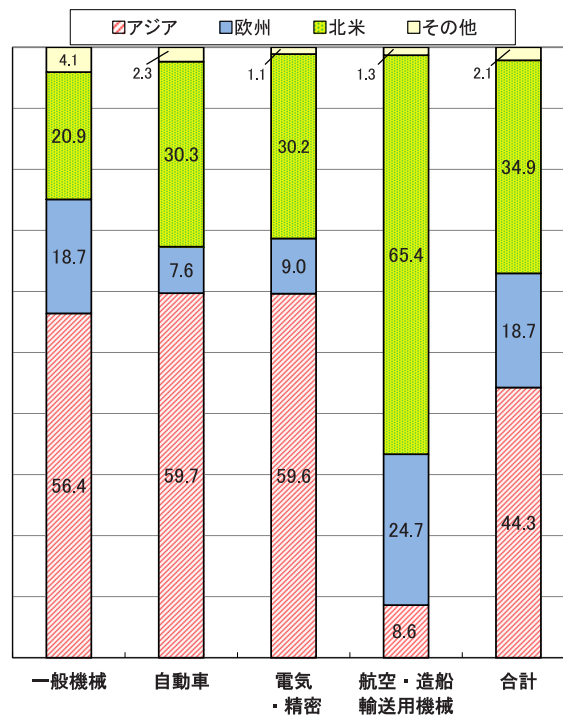
出所：日本工作機械工業会

外需【12月分】

主要3極別・業種別受注構成



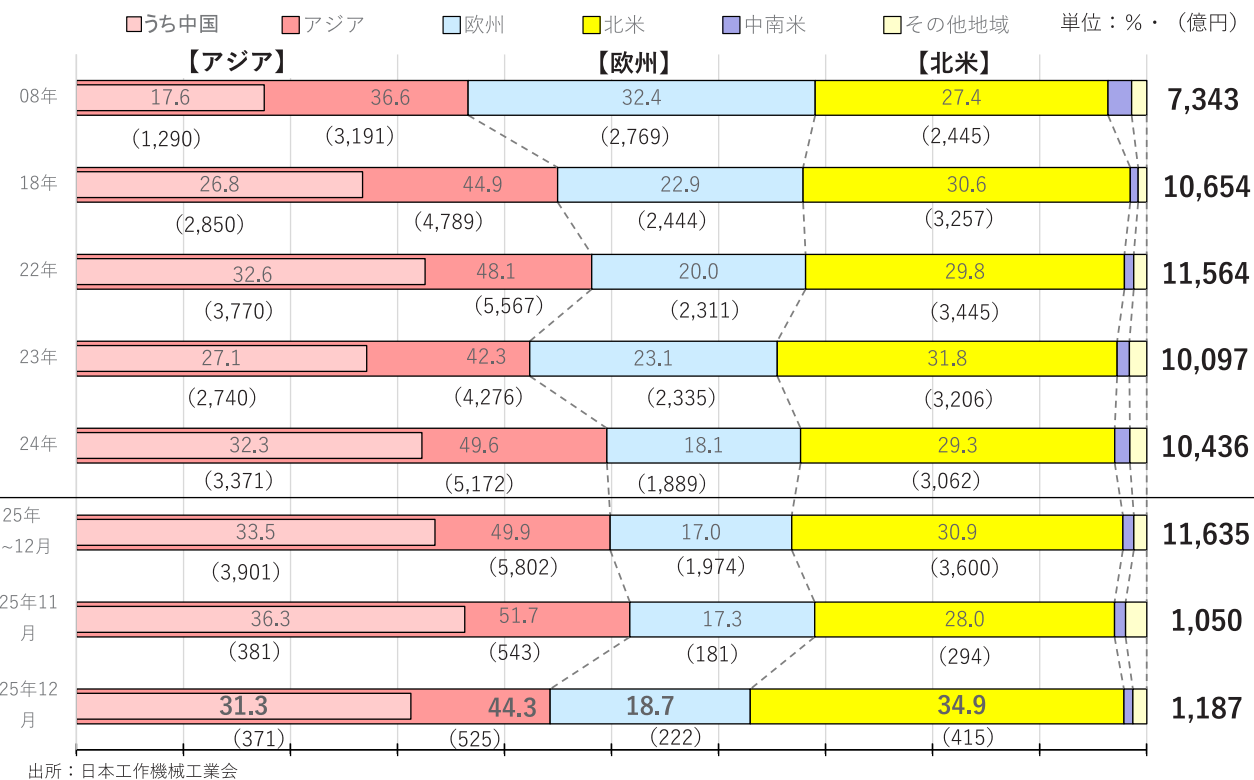
出所：日本工作機械工業会



出所：日本工作機械工業会

外需 地域別構成の推移

12月は、2カ月ぶりに北米比率が30%超え。



出所：日本工作機械工業会

お知らせ

◆インド OTR（インド BIS 認証制度）廃止について

インド重工業省「設備・電気機器安全規則（包括的技術規制）2024」（インドBIS強制認証制度）英名：〔Machinery and Electrical Equipment Safety（Omnibus Technical Regulation：OTR）Order, 2024〕」について、同規制が廃止・撤回になりましたのでお知らせ致します。

<https://www.bis.gov.in/wp-content/uploads/2026/01/Machinery-and-Electrical-Equipment-Safety-Omnibus-Technical-Regulation-Order-2024.pdf>